

畜産現場における 障がい者の参画事例集

～多様な人材で拓く畜産経営の未来～



平成29年3月

畜産経営支援協議会

まえがき

本書は、畜産経営支援協議会(事務局:公益社団法人中央畜産会)が、平成27年度より実施している「畜産現場における障がい者の参画推進支援事業」による調査結果をもとに、現時点の畜産現場における障がい者就労実態の一端を事例集としてとりまとめたものです。

本事業は、畜産の現場への障がい者の就労を支援することを目的として、日本中央競馬会畜産振興事業に応募・採択されたもので、3カ年の事業として取り組んでおります。

2年目にあたる平成28年度は、酪農、肉用牛等を飼養する畜産農家等、障がい者の雇用・就労を支援する特別支援学校等、福祉事業の一環として畜産に取り組む社会福祉施設等を対象とした実態調査を踏まえて、本書を含む情報提供資料の作成を行いました。

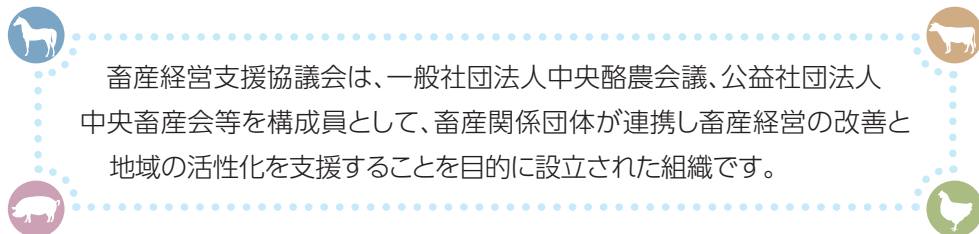
障がい者とともに働く経営をお考えの畜産経営者、畜産現場での就労をお考えの障がい当事者や特別支援学校の関係者、社会福祉施設で畜産を取り入れた取り組みをお考えの福祉関係者など、関心のある皆様方に、少しでも役立つことを願っています。

なお本書のほか、「畜産現場における障がい者の参画推進のための手引」を作成しています。併せて参考にいただければ幸いです。

本書の作成にあたり、お忙しい中、調査にご協力いただきました農業法人や畜産農家の方々、特別支援学校、社会福祉施設、障害者就労支援組織など地域の支援者の方々、そして調査や推進委員会におきましてご協力とご指導をいただきました委員各位、ならびに県畜産協会、日本中央競馬会に御礼を申し上げます。

平成29年3月

畜産経営支援協議会



目次

まえがき

1	畜産現場における障がい者の参画について……………	1
2	障がい者の参画する事例……………	7
	参考資料……………	54
	障がい者就労に関わる用語……………	56

凡例

● 加工ほか：食肉処理、生乳処理、ハム・ソーセージなどの加工製造、乳製品や卵製品の加工製造、直売所、カフェ・レストランなどを含む



肉牛



養豚



養鶏



鶏卵



馬



酪農



加工ほか

北海道

東北・関東・北陸東海

近畿・中国・四国

九州

1

畜産現場における 障がい者の参画について

1. 畜産現場における障がい者の参画について

人口減少社会の到来により、多様な人材がさまざまな分野でそれぞれの能力を発揮して働くことが、ますます重要になってきています。とりわけ第1次産業の分野では、後継者不足による担い手の高齢化が加速しており、新規参入者の確保とその人材育成が喫緊の課題となっています。

そして、農畜産物に関する自由貿易協定の行方も定まらない状況下において、畜産現場ではコスト低減のための設備投資と規模拡大の必要性を認識する一方、競争力の高い良質な畜産品供給に向けて、家畜飼養の現場で動物との慈しみをを持った関わりや機械化に馴染まない補助的作業の人手を確保することの重要性にも注目が集まっています。

畜産分野での深刻な人手不足の一方で、近年の我が国の畜産は、農業総産出額の35%を占め、農業における基幹的部門の一つとなっています。昭和50年以降の肉類(牛肉、豚肉、鶏肉)、鶏卵、乳製品(飲用を除く)の1人1年当たり消費量は、鶏卵が近年やや横ばいになっているものの、いずれも増加傾向にあると言えます(図1.1)。こうした消費者需要の増加傾向は、人手不足を解消することにより増産することで収益を拡大する余地が大いに期待できることを示唆しています。

耕種を中心に取り組みが定着しつつある農業と福祉の連携事例では、農作業の取り組みが障がい者の就労支援のみならず、規則正しい生活リズムや自らの働きかけによって作物が育つことへの達成感が、障がい者の健康増進や社会参加意欲につながる効用が指摘されています。

動物の生命を育む畜産現場では、こうした効用が一層大きいことが期待されます。

昨年度に実施した「畜産現場における障がい者の参画推進のためのアンケート調査」の結果からは、調査協力の得られた畜産関係施設258箇所のうち、90施設(法人71、個人19)で障がい者の就労が確認され、雇用されている事例も多く見られました。また、このほか過去に雇用または就労していた施設も25箇所存在しました。

家畜飼養や畜舎管理の現場における一連の仕事を、細分することでわかりやすい単純な作業として切り出すことにより、畜産経営の中に存在する多くの仕事を分担してもらうことが可能になります。2カ年の現地調査を踏まえて、この事例集では、こうした仕事の切り出しを適切に行うことにより、多くの仕事を障がい者が担っている事例を随所で紹介しています。

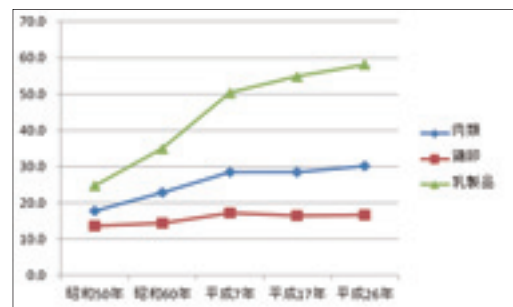


図1.1 畜産物消費量の推移(単位はkg/人・年)

2. 調査対象事例について

本書で扱う事例の所在地ならびに事例の特色を整理した一覧表を次頁以降に示します。

なお、調査は、平成28年2月から平成29年1月にかけて実施したものです。掲載内容は、調査時点のものであることにご留意ください。

畜産現場における障がい者の参画事例とその所在地

北海道

- 01 有限会社 くさなぎ農園
北海道帯広市
- 02 農事組合法人 共働学舎新得農場
北海道上川郡新得町
- 03 合同会社 農場たつかーむ
北海道有珠郡壮瞥町

東北・関東・北陸東海

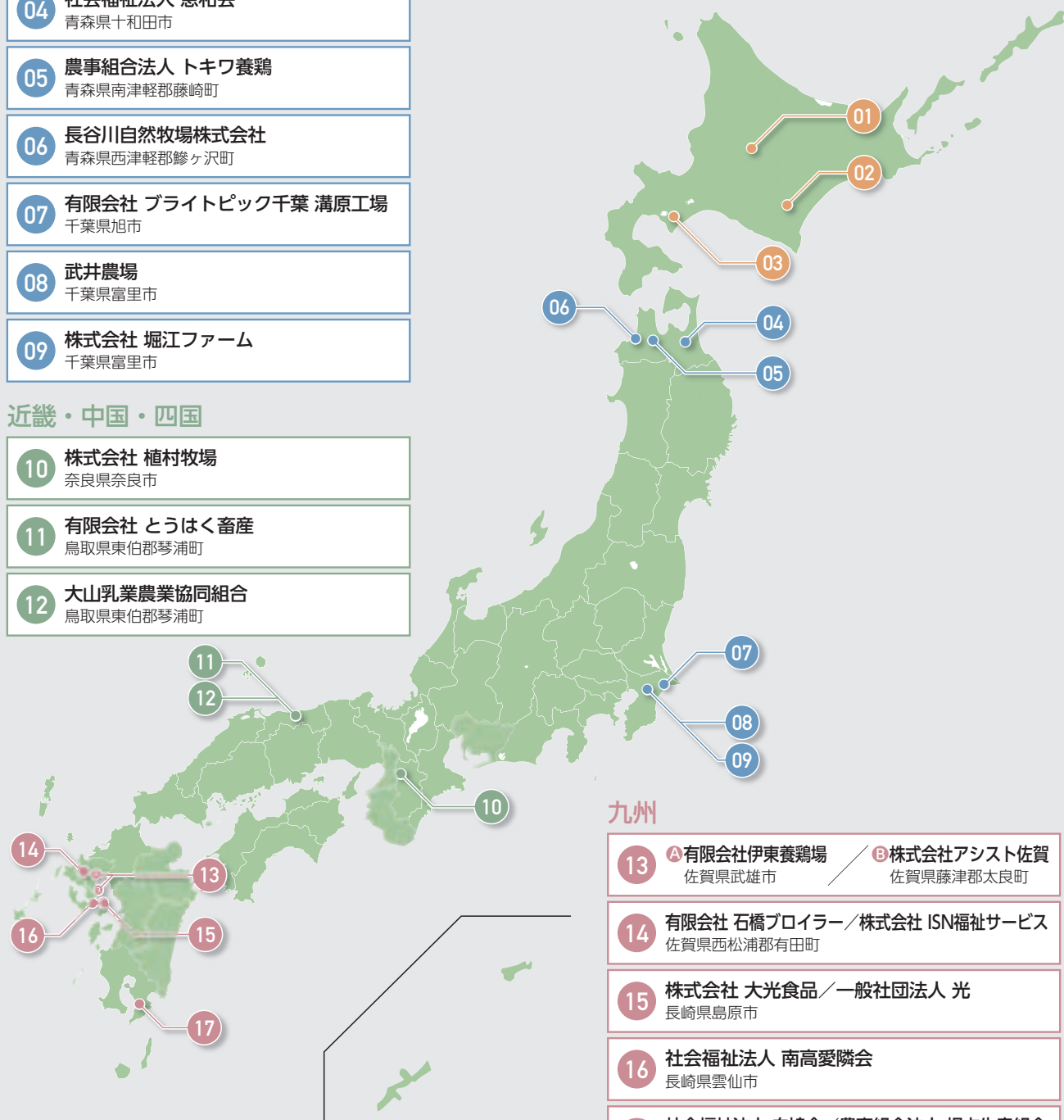
- 04 社会福祉法人 恩和会
青森県十和田市
- 05 農事組合法人 トキワ養鶏
青森県南津軽郡藤崎町
- 06 長谷川自然牧場株式会社
青森県西津軽郡鰺ヶ沢町
- 07 有限会社 ブライトピック千葉 溝原工場
千葉県旭市
- 08 武井農場
千葉県富里市
- 09 株式会社 堀江ファーム
千葉県富里市

近畿・中国・四国

- 10 株式会社 植村牧場
奈良県奈良市
- 11 有限会社 とうはく畜産
鳥取県東伯郡琴浦町
- 12 大山乳業農業協同組合
鳥取県東伯郡琴浦町

九州

- 13 A 有限会社伊東養鶏場
佐賀県武雄市 B 株式会社アシスト佐賀
佐賀県藤津郡太良町
- 14 有限会社 石橋ブロイラー / 株式会社 ISN福祉サービス
佐賀県西松浦郡有田町
- 15 株式会社 大光食品 / 一般社団法人 光
長崎県島原市
- 16 社会福祉法人 南高愛隣会
長崎県雲仙市
- 17 社会福祉法人 白鳩会 / 農事組合法人 根占生産組合
鹿児島県肝属郡南大隅町



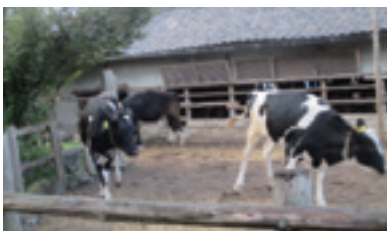
◆事例一覧

番号	タイトル	運営・経営体の名称	道県	畜種等							
				酪農	肉用牛	養豚	肉用鶏	採卵鶏	加工等	直売・レストラン	
01	新規就農をして福祉農園を開設	有限会社 くさなぎ農園	北海道			○		○			
02	‘自労自活’の精神で世界に通用するチーズを製造	農事組合法人 共働学舎新得農場	北海道	○					○	○	
03	障がい者と一緒に循環型農業を実践して地域をつなぐ	合同会社 農場たつかーむ	北海道					○		○	
04	社会福祉施設での肉牛繁殖肥育の取り組み	社会福祉法人 恩和会	青森県		○						
05	‘仕事の切り出し’に期待がかかる障がい者雇用の拡大	農事組合法人 トキワ養鶏	青森県					○			
06	ふれあい体験牧場における女性障がい者の雇用経験	長谷川自然牧場株式会社	青森県			○		○	○		
07	‘エコフィード’の製造工程で従業員として活躍	有限会社 ブライトピック千葉 溝原工場	千葉県			○					
08	三世代続く職親の取り組み	武井農場	千葉県			○					
09	教育分野での経験から職親として養豚	株式会社 堀江ファーム	千葉県			○					
10	障がい者を雇用して古都の市街地で続く牧場経営	株式会社 植村牧場	奈良県	○					○	○	
11	服薬しながらの長期勤続で障がい者雇用に手応え	有限会社 とうはく畜産	鳥取県		○						
12	協同組合組織で障がい者を雇用	大山乳業農業協同組合	鳥取県						○		
13	採卵からカフェまで働く場を拡大する養鶏場経営	有限会社 伊東養鶏場／株式会社 アシスト佐賀	佐賀県					○		○	
14	グループ会社を設立して障がい者雇用に安定化	有限会社 石橋プロイラー／株式会社 ISN福祉サービス	佐賀県				○				
15	障がい者を大量雇用して地域の食と福祉を担う	株式会社 大光食品／一般社団法人 光	長崎県						○		
16	アニマルセラピーなど幅広い取り組み	社会福祉法人 南高愛隣会	長崎県		○						
17	農畜産業を礎に就労の場を地域に創出	社会福祉法人 白鳩会／農事組合法人 根占生産組合	鹿児島県		○	○			○	○	

※1 表中の○は運営・経営主体を、▽は作業委託先となる系列組織等を示す

※2 福祉事業所等の人数には、職員のみでなく、福祉サービス等の利用者人数を含む

※3 表頭の「直接雇用」を2章各事例冒頭の青色タブでは「雇用」、同様に「福祉事業所等への作業委託」を「作業委託」、「福祉事業所の取組」を「福祉的就労」と示す



その他	運営・経営形態※1								従業員数※2			障がい者就労取組年数			就労形態による種類※3			
	個人経営	有限会社	株式会社	合同会社	農事組合法人	協同組合	社団法人／NPO法人	社会福祉法人	10人未満	10～50人未満	50人以上	10年未満	10～30年	30年以上	直接雇用	福祉事業所等へ作業委託	福祉事業所の取組	その他
		○							○			○				○		
					○		▽			○			○		○		共働	
				○					○				○			○		
					○			○	○				○			○		
					○				○				○	○				
山羊、羊ほか			○						○				○	○				
		○							○			○		○				
		○							○				○				職親	
			○						○				○				職親	
			○						○				○	○				
			○			○			○				○	○				
			○	▽					○				○	○	○			
			○	▽					○				○		○			
			○				▽			○				○	○			
馬								○		○				○		○		
					○		○▽			○				○	○	○		



2

障がい者の参画する事例

北海道

- 01 北海道  鶏卵  養豚
- 02 北海道  酪農  加工ほか
- 03 北海道  鶏卵  加工ほか

- 有限会社 くさなぎ農園 8
- 農事組合法人 共働学舎新得農場 10
- 合同会社 農場たつか一む 14

東北・関東・北陸東海

- 04 青 森  肉牛
- 05 青 森  鶏卵
- 06 青 森  養豚  鶏卵  加工ほか
- 07 千 葉  養豚
- 08 千 葉  養豚
- 09 千 葉  養豚

- 社会福祉法人 恩和会 18
- 農事組合法人 トキワ養鶏 22
- 長谷川自然牧場株式会社 24
- 有限会社 ブライトピック千葉 溝原工場 26
- 武井農場 30
- 株式会社 堀江ファーム 32

近畿・中国・四国

- 10 奈 良  酪農  加工ほか
- 11 鳥 取  肉牛
- 12 鳥 取  加工ほか

- 株式会社 植村牧場 34
- 有限会社 とうはく畜産 38
- 大山乳業農業協同組合 40

九 州

- 13 佐 賀  鶏卵  加工ほか
- 14 佐 賀  養鶏
- 15 長 崎  加工ほか
- 16 長 崎  肉牛  馬
- 17 鹿児島  養豚  肉牛  加工ほか

- 有限会社 伊東養鶏場／株式会社 アシスト佐賀 ... 42
- 有限会社 石橋プロイラー／株式会社 ISN福祉サービス ... 44
- 株式会社 大光食品／一般社団法人 光 46
- 社会福祉法人 南高愛隣会 48
- 社会福祉法人 白鳩会／農事組合法人 根占生産組合 ... 50



有限会社 くさなぎ農園

～新規就農をして福祉農園を開設～

北海道帯広市

くさなぎ農園は、北海道中央部の帯広市郊外で養豚や鶏卵採取をしている農園です。豚や鶏の自家配合飼料の利用やストレスの少ない頭数で平飼いするなど、食の安全と安心にこだわった生産をしています。園主夫婦は、理想の農業経営を行いたいと考えて、北海道で新規就農し、福祉農園を開設しました。障がいのある人7名が、日中はこの農園で作業をしています。豚舎の掃除や飼料の配合、給餌、水やりなどの作業を行います。地元の特別支援学校^{*1}から実習生を受け入れて、地域の基幹産業である畜産の仕事が卒業生の進路の選択肢に加わるように働きかけるなど、地域の障がい者就労推進に広く貢献しています。

法人経営概況

- ① 経営内容 養豚(黒豚)、採卵鶏(有精卵)
複合経営 長いも、鶏糞製造
- ② 労働力 14名
- ③ 法人形態 有限会社
多機能型事業所^{*2}(就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所^{*3})
- ④ 特徴
 - ▶ 1994年に新規就農(清水町)、2000年八千代町に移転
 - ▶ 飼料は、国産100%、特に地域の未利用資源を多く利用(カボチャや長芋を発酵させたものなど)、添加物等の心配のない自家配合飼料
 - ▶ 農園での作業のほか、畑作業の受託、フェルト(羊毛)作業など

障がい者の就労状況

- ① 人数と障がい種別
7名、知的障がい
- ② 就労形態
就労継続支援A型事業所の利用者
労働契約を結ぶ雇用(賃金)
就労継続支援B型事業所の利用者
作業に応じた工賃
- ③ 通勤、住まい、食事など
通勤の難しい人は、農園内にある住居で共同生活(経営主の妻が代表を務めるNPOがグループホーム^{*4}を運営)

立地条件など

帯広市は、十勝平野の中央部、農業の盛んな地域です。くさなぎ農園は、帯広駅から車で45分、十勝山脈東側の麓に広がる農業地域にあります。



障がい者が主に担う作業

くさなぎ農園には、通勤のメンバーと、敷地内にあるグループホームで生活しているメンバーがいます。早朝や夕方の水遣りや採卵の仕事は、グループホームのメンバーが担当します。日中は、採卵や出荷のための卵拭き、パック詰め作業、水の補給などの作業を行います。午後は、エサやりと、翌日のための餌づくりなどを行っています。また豚舎や鶏舎の清掃を行います。

10～12月には、カボチャや長芋を用いた発酵飼料づくりを行います。大型機械を使う作業もあるため、作業時には注意を促しています。

受託作業も増えており、近隣の農家での除草作業や野菜の袋詰めなどを行います。



パーク（木の皮を細かくしたものを深く敷き詰めた豚舎）



平飼いの鶏舎

一日の作業

朝食前 — 水やり、採卵
 8時 — 朝食、休憩
 9時 — 通勤メンバー出勤
 午前の作業（休憩あり）
 12時 — 昼食
 13時 — 餌やり、翌日の餌づくり
 15時 — 通勤メンバー退勤、
 休憩、採卵
 17時 — 終業

取り組みの経緯と地域との関わり

代表は、道内での福祉農園での研修を経て、夫婦と障がい者1名の3名で養鶏を開始しました。現在の地に移転して畜産農家として新規参入後、福祉のサービス事業制度に則りながら、障がい者の就労できる畜産経営と福祉事業所の形を整えてきました。近隣農家に出かけて行う作業受託では、収穫野菜の袋詰めなど繁忙期の補助作業を担ったり、畑の草刈りを請け負うことにより、地域の農地管理という役割も果たしています。地域の農業者との関わりが深まることで、近隣農家からの評価も良好です。

●自家配合飼料のこだわり

近隣農家から規格外の農産物など売りにならない食材を引き取り、地場農産品を活用した安全・安心な飼料を作り、豚や採卵鶏の飼養に供しています。飼料へのこだわりは、付加価値のある鶏卵や加工品の生産を維持しているのみならず、地域との関わりを一層強くしているようです。



自家飼料の配合作業

●羊毛加工の取り組み

近年ではA型に加えて、就労継続支援B型事業所の認定を得たこともあり、家畜飼養の仕事になじまない利用者のために、羊毛を手作業でスリッパなどのフェルト小物に加工する作業も開始しました。



コラム

特別支援学校との連携

農園の隣町の高等養護学校には、農業科があり担当教員の指導のもと、年間を通して野菜、きのこ、花などの栽培を行っています。進路指導では、毎年、現場実習を行っています。くさなぎ農園とは、実習生の受入れなど日頃から連携を図っています。この5年間では、卒業生の3割が一般就職しましたが、そのうち4名が農林漁業分野に進みました。



障がい者就労に関わる用語

- ※1 特別支援学校 → p.57
- ※2 多機能型事業所 → p.57
- ※3 就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所 → p.56
- ※4 グループホーム → p.56

関連情報

法人URL <http://www.t-owls.org/kusanagi/>
 所在地 北海道帯広市八千代町東1線180-9





農事組合法人 共働学舎新得農場

～‘自労自活’の精神で世界に通用するチーズを製造～

北海道上川郡新得町

共働学舎新得農場は、長野県で1974年に設立されていた共働学舎を新得町が誘致して1978年に設立されました。同年6月の入植以来、「自労自活」の理念のもと、障がい者と一緒に働き、搾乳とチーズ製造を主体とする共働農場としての経営が続けられています。組織としては、NPO法人共働学舎新得農場と農事組合法人共働学舎新得農場の2組織から構成されています。前者は主として生活の場であり、後者は農業生産、加工、販売という生産の場となっていますが、NPO法人もチーズ製造や日常の農作業などの生産活動を農事組合法人から受託しています。設立時に無償で借り受けた町有地約30haの2倍以上の面積になった畑で、2つの組織が相互に関わりながら、障がい者や触法者など社会適応が難しかったさまざまな人たちが一緒になって酪農を営んでいます。

法人経営概況

①畜産

酪農 乳牛ブラウンスイス85頭、ホルスタイン10頭
肉牛ブラウンスイス15頭、その他、豚40頭、鶏、羊40～50頭、馬

②野菜などの作物畑

3.5ha、家畜用飼料畑:43.8ha、放牧地:22ha、畑の総面積:120ha

③年間生産出荷量

牛乳340ト、チーズ330ト チーズ原料乳は牛乳を売却後、買い戻す
肉牛ブラウンスイス6頭 赤肉販売用、豚20頭 自家加工用
有機野菜4ha 約70名の協力会員に販売(年4回)

④従業員

79名(うち障がい者は40名、障がい者のうち20名が手帳^{※1}保持者;調査日時点)
共働学舎外部の人も約20名、ボランティア1～2名、パート5名も含まれる

⑤法人形態

農事組合法人、NPO法人
グループホームや就労支援事業の福祉制度にのせてない(手続きが煩雑)
手間のかかる事務手続きよりも生産性の向上を優先
NPO法人は、農作業の委託料と寄付で運営

⑥特徴

共働作業、報酬は平等に分配(生活費1万円/月は全員に支払、年金受給は個人)
「来るもの拒まず、去る者追わず」の精神、社会適応困難者のほか、チーズづくり、有機農業に関心のある人、海外留学生らも共同生活、共同生産を行っている

障がい者の就労状況と課題

- ▶メンバー各人には「今日は何をするのか」と問いかけ、自主的に行動を選択させる。
- ▶「できることからする」という働き方のスタイルを採用して自主性を育てる。
- ▶細かなルールやマニュアルはない。自らの意志と選択による行動を大切にしている。
- ▶メンバーは、短期間で自宅に戻る人、1～2年間新得農場で過ごすことで自信をつけて就職していく人、いつまでも留まることを希望する人など様々で、人数も常に変動。
- ▶基本的な作業時間は、午前が9～12時、午後が14～17時の6時間/日の労働
- ▶労働契約はしておらず、保険は国民健康保険で対応
- ▶作業は相互に役割分担
- ▶早朝の作業は寮で生活する独身者が交代で担当。10組の家族も敷地の奥に住居あり
- ▶メンバーの家族も共同作業に参加。女子寮も完備、代表の妻らが世話役
- ▶2年前には実現できていた年間400トンの出荷乳量が当面の目標、将来は飼料の輸入穀物依存をやめ、放牧、牧草・デントコーン・穀物の自家飼料で440トン出荷、チーズ生産360トンを目指している。
- ▶主力製品のチーズは世界の数々の賞を受賞しており、国際的にも品質が高いことを証明
- ▶安全で美味しいチーズの高付加価値販売による経営の安定を目指し、様々なハンディキャップのある人と一緒に働くことができ、寄付や補助金に頼らない経済的な自立と持続可能な取り組みの実現

地域との関わりや交流

新得共働学舎は、知的障がい者や精神障がい者、不登校の児童や生徒など、家庭生活や社会生活が困難な人々を受け入れ、集団生活や農作業を通して、自立のための支援を行っていることから、地域内外の多くの人の出入りが絶え間なくあり、共働学舎を訪れるチーズづくりや有機農業に関心の高い人々との交流も相まって、様々な人々との出会いの場を提供しています。国際的にも高い評価を受けたチーズ製造が有名になってからは、レストランと売店を兼ねた交流センター「ミンタル」には、観光客も訪れています。

そして、共生社会の実践やストレスの少ない暮らし方が、共働学舎の中から地域に波及して、共生型の町づくりにも少なからぬ影響を与えています。一方で、チーズが通販でも人気商品に成長したことで、地域に限定されない消費者との関係性も構築されることが、場合によっ

ては地域との一体性が軽視される懸念も一般的には生じてきます。しかし、新得共働学舎では、代表が地域の役員を積極的に引き受けることや、人手不足で経営に困難をきたしている酪農家に共働学舎で技術を習得した障がい者を就職させるなど、共働学舎の中に留まらずに地域の酪農業を支援すること

一日の作業

- 作業時間は、9～12時および14～17時の6時間
- 酪農作業をするメンバーは、朝4時30分からパーラーでの搾乳作業、牛舎の清掃作業
丁寧な掃除、機械の運転の可否による作業の差はあるが全員が動物との接し方に熟達
- 農場には様々な仕事がある。例:畑(野菜づくり、出荷準備、販売など)、牛・豚・羊・馬の飼育、畜舎の管理(糞出し、清掃など)、工芸(とうもろこし人形の製作、工芸用の花栽培、羊毛草木染め、羊毛編み物)、木工(家具、日用品製作)、乳製品加工(チーズ、バター)、菓子製造(パン、クッキー)、交流センター「ミンタル」での物品販売、レストランの接客、事務、建築(住宅、小屋づくり)、家事(食事づくり、掃除、薪割り、食器洗い)など多種多様。
- 作業を通して自分に合った仕事を見つけ、担うことで自分の役割を見出すようにする。
- 農業の仕事は、畜産と野菜栽培が主体。
- チーズ、ソフトクリーム、クッキー、ケーキ、パンなどの加工、レストラン経営などの6次産業化の取り組みも実施。
- 農場内で生産される牛肉、野菜の直販も実施。



酪農



加工ほか

北海道

で、地域との関係性が深まっています。

触法者の受入時には地域住民の反発もありましたが、障がい者が一緒に働いて暮らせる場所づくりの実績は地域で高く評価されています。また、地域に特別支援教育の場を創るために、養護学校の新得分校の設置にも尽力するなど、地域の様々な課題の解決に大きく貢献しています。



交流センター「ミントル」とガーデンの入口。レストランからブラウンスイス種が散歩している風景も。季節や曜日で提供種類が変わるチーズは人気メニューの一つ



メンバーの生活する住宅や単身者の寮（木の温もりのある生活感）

コラム

飲用生乳価格とチーズ向け生乳価格の差

現行制度では、チーズ原料の牛乳について、自家の搾乳をそのまま利用せず、指定生乳生産者団体制度により指定されている、地域の農協等に売却した後、チーズ原料の生乳を買い取ることでチーズ生産コストを削減することができます。チーズ向けの生乳については、脱脂粉乳やバター向けの生乳に加えて平成26年度から加工原料乳生産者補給交付金の交付対象に追加されたため、円滑な取引が可能になっています。こうした酪農経営全般を対象とする諸制度を、障がい者雇用に取り組もうとする酪農経営体が利用しやすくなるように運用することや該当する経営主体が積極的に活用できるようにすることが期待されます。



共働学舎の敷地内では随所に暮らす場に隣接した生産現場の風景が見られる

コラム

「鉄」と「電気」を生命体から遠ざけ、 「炭」の効用を体感

「鉄」も「電気」も近代的な生活に不可欠とされるものですが、常時身近に接することの悪影響を指摘する意見もあります。新得共働学舎の交流センター「ミントル」は、木造建築とすることで「鉄」の使用を最小限にするとともに、カフェスペースの地下に高温で焼いた「炭」1トンが4ヶ所に分けて埋められています。来訪者やメンバーに、ストレスの少ない空間を提供する工夫が、こんなところにも施されています。ちなみに「ミントル」とは、アイヌ語で「広場」とか「人の行き交う場所」という意味だそうです。

障がい者就労に関わる用語

※1 障害者手帳 → p.57

関連情報

法人URL <http://kyodogakusha.org/>

所在地 北海道上川郡新得町字新得9-1



酪農



加工ほか

北海道

合同会社 農場たつかーむ

～障がい者と一緒に循環型農業を実践して地域をつなぐ～

北海道有珠郡壮瞥町

「合同会社農場たつかーむ」は、1987年に設立者である代表夫妻が、有機農業を志して山間部の離農跡地に入植し、1haの畑と50羽の自然卵養鶏を開始したことにルーツがあります。法人化は2006年、約30年前の設立当時には、障がい者の雇用を支援する制度は現在のように整備されておらず、職場適応訓練制度を活用して2年間で障がい者を雇用する農場経営を立ち上げました。そして、法定雇用率^{*1}を達成することによる報奨金を受けながら、1990年には雇用従業員6名、1,500羽の養鶏農場となりました。

「たつかーむ」の特徴は、共働きの理念を見失わずに、近代的な雇用契約を締結して障がい者を雇用する農場経営にあります。従業員寮の建設を機に個室生活となるなど時代にあった変遷をたどっていますが、養護学校の卒業生らを正式に雇用して、彼らと共同生活をしながら採卵養鶏と有機農業による野菜や飼料づくりの取り組み理念の実践は、現在まで長く続いています。

2001年には、7.5haの全圃場の有機JAS認証を取得。従業員に若手が多い年齢構成を利点に、耕作圃場と販路を拡大して、2009年には合同会社が多機能型事業所の指定も受け、障がい者の就労支援体制も一層強化されています。最近では、玉子料理を主体とするカフェも開店。現在では、養鶏3千余羽、「平飼いの有精卵」は札幌市内にも出荷されています。また、畑事業を強化して、大豆、ズッキーニ、ニンニク、大根など、豆類を中心にしつつ多品目を栽培するとともに、豆のドライ缶詰を生産販売しています。こうした6次産業化にも取り組みつつ、発酵鶏糞肥料を製造して「めぐみ」という名称でブランド化にも成功、安価に提供していることが地域の農業者との良好な関係構築にもつながっています。

法人経営概況

有機循環複合農業

①畜産

採卵養鶏[平飼いの有精卵の販売・出荷]

②複合部門の生産品目

野菜(大豆などの豆類、大根、ズッキーニ、ニンニク、ピーマン、トマトなど)、飼料。すべて有機農法による生産(JAS認証を取得)。

③その他

有機堆肥の生産販売、鶏肉くんせい(加工は食肉工場に委託)

豆のドライ缶詰生産販売、カフェレストラン

④主たる出荷先

生協、道の駅、レストランでの店頭販売

⑤従業員数

10名

⑥障がい者雇用

6名(就労移行支援事業の利用者)

上記のほか、就労継続支援A型事業の利用者を本人の希望により短時間雇用

⑦法人形態

合同会社 法人が多機能型事業所の認定あり

代表は認定農業者(畑作、養鶏)

障がい者の就労状況

- 1日6時間労働、個人の体調に合わせた勤務形態も採用
- 養護学校の新規卒業生の採用が中心、就学時に日常生活の自立を徹底指導。
中途採用もあり。若手も多い年齢構成。
- 障がい者と一緒に作業をすることで作業方法や技能を伝授、習得
- 採卵養鶏、農産、カフェの部門別に担当
- A型事業が主体、就労移行支援を併設の多機能型事業所
- 別組織のNPO法人が従業員寮をグループホーム制度に則り運営。
ケアホームに
- 従業員は社宅やケアホームで生活、昼間の仕事をたつかーむが指導、支援
- NPO法人は、地域活動支援センターⅡ型事業
- 就業先の経営主は障がい者雇用を行い就労面での責任は持てるが、生活面での支援と責任所在が明確でないと経営主には不安が残り、障がい者雇用を推進する場合の抑制要因となることが懸念。

一日の作業

- 朝礼、ラジオ体操
- 9:30 鶏舎へ 給餌、水やり、採卵、鶏舎清掃、鶏糞だし など
- 採卵後 作業室屋内で 洗卵、パック詰め
- 鶏卵部門は13人;仕事は任せておける習熟度
- 制限給餌は効率的であるが「シンプルで分かり易い作業」にするため多めの給餌
- 120g/羽・日(120kg/1,000羽)約100羽の鶏舎1棟に12kg給餌



鶏卵

加工ほか

北海道



採卵直後の鶏卵を洗卵機を使って洗浄、
パック詰め作業



平飼いの鶏舎では、ストレスの少ない養鶏が行われている



広大な区画の畑で、有機農業により栽培した野菜を収穫する利用者ら

■ 地域との関わりや交流

自治会や養護学校職親会の役員などを積極的に引き受けることにより、地域との緊密な関係性を構築してきました。養護学校の卒業生の定着率は極めて高く、農場設立初期からのメンバーが主力となって経営を支えています。カフェはランチタイムに地域の常連客も多く来訪して盛況です。道路沿いの農産部門の施設では、発酵鶏糞肥料を販売しており、安心安全な良質の堆肥として、地域の農業者に好評を得ています。

グループホームや相談部門の運営、地域活動支援センター事業の受託などを行うNPO法人を、農場経営の合同会社とは別法人として設立することで、農業分野と福祉分野を橋渡しする役割も担ってきました。障がい者の雇用創出を行い、地域の障がい福祉に関する相談先としても貢献しています。また、地域の就業・生活支援センターとも日常的に情報交換を行い、職親会を通した卒業生の進路に関する養護

学校との緊密な関わりはもちろんですが、地域の社会福祉施設の利用者の実習を受け入れたり、個別経営農家からの農作業委託業務を施設外就労の仕組みを活用して事業所との橋渡しをしたりすることで、農福連携の役割も担っています。



カフェでは有精卵など自家製品の物販も。



有機循環複合農業の象徴である
鶏ふん「めぐみ」の販売所



合同会社や福祉事業所の加工食品のほか、従業者や利用者の母校の高等養護学校の窯業科の作品も売られている道の駅・観光物産館

障がい者就労に関わる用語

※1 法定雇用率 → p.57

関連情報

法人URL <http://tatukam.jp/>

所在地 北海道有珠郡壮瞥町字立香92-12

コラム

障がい者就労に関する北海道伊達高等養護学校の大きな貢献

北海道では雪の期間が長いために遠距離通学が困難であるという環境もありますが、寄宿舎生活を通して日常生活の自立を徹底して指導することにより生活力を育てることが、生徒の卒業後の進路決定に大きな力となっています。根気強さや礼儀正しさ、健康や安全に関する正しい知識と態度、そしてコミュニケーション力の習得は、社会生活や職業生活に関する知識や技能を身につける上でも重要です。農業科を含む6学科構成と現場実習を重視したカリキュラム編成により、卒業までの年次を追って知識や技能を深めていく指導体制は、職員数と生徒数が1対1に近い比率で生徒1人1人を指導できることと相まって、個性を尊重した進路指導につながっていると認識されます。こうした教育分野からの支援体制の充実は、雇用先の畜産経営現場での卒業生の定着にも実を結んでいると言えるでしょう。



社会福祉法人 恩和会

～社会福祉施設での肉牛繁殖肥育の取り組み～

青森県十和田市

社会福祉法人恩和会は、元理事長により開墾された水田耕作が礎となっています。障がいのある実子の社会参加の場としての取り組みがきっかけとなり、昭和62年には社会福祉法人としての認可を得て、農作業を通じた障がい者の授産施設として歩み始めました。現在、18歳以上の利用者38名が福祉ホーム、グループホーム^{※1}や自宅から農工園千里平に通って、畜産(肉用牛繁殖、一部肥育)を実施しています。

福祉による支援が必要な人を農業で受け入れるのでは無く、福祉支援者が農業に取り組んで社会参加と就労の場を提供している点が特徴です。そのため職員は障がい者の支援だけではなく、家畜管理を含む農作業の支援・指導に長けています。

こうした取り組みにより、県共進会、枝肉共励会などで数々の上位入賞を果たし、県試験場の供卵牛に選抜されるなど優良牛の生産に一役かっており、家畜市場販売を通じて地域畜産振興に寄与しています。

法人経営概況

① 経営内容

肉用牛繁殖、一部肥育。県内でも最大規模の頭数。繁殖牛85頭、肥育牛7頭、育成・子牛47頭、合計139頭
複合経営 ごぼう

② 労働力

施設利用者38名と支援員数名

③ 法人形態

社会福祉法人

④ 特徴

障がい福祉サービス事業所農工園千里平(就労継続支援B型、移行支援)としての運営

障がい者の就労状況

① 人数と障がい種別

38名(男性29名、女性9名)、主に知的障がい

② 就労形態

就労継続支援B型事業所^{※2}(雇用契約を結ばない)の利用者 34名
就労移行支援事業所^{※3}の利用者 4名

③ 通勤、住まい、食事など

本人の暮らしを支える福祉ホーム、グループホームを用意し、施設としての機能を強化中。グループホームまたは自宅からの通勤。

④ 特徴

県の平均工賃を超える水準で工賃^{※4}を支給。

利用者の情操教育にも力を入れてきており、「茶道」を取り入れ、心の安定確保を図っている。正装して日本の伝統文化に触れる機会として毎年恒例の初釜会を開催。

立地条件など

十和田市は、県の南東中央部に位置し、東方には三本木台地が広がり、十和田湖を源とする奥入瀬川、稻生川など多数の河川が大を横断し太平洋へと流れています。冷涼で四季がはっきりしていますが、晩春から夏にかけてヤマセ(偏東風)が吹いて低温が続く、農作物に大きな被害を及ぼすことがあります。



障がい者が主に担う作業

利用者は、主に黒毛和牛の飼育を中心とした畜産班に所属しており、様々な作業を担います。畜産班はさらに4班に分かれています。

一日の作業

- 8:00 出勤 ラジオ体操・朝礼
- 8:45 作業訓練(各班毎に)
掃除・えさ(牧草、わら)やり
(休憩)牛出し・堆肥あげ
- 12:00 昼食
- 13:00 作業訓練(各班毎に)
掃除・えさ(牧草、わら)やり
牛入れ・(休憩)道具の片付け
- 16:00 退勤



他に水稻班、ゴボウ班、家庭科班などがあります。家庭科班では、作業着の洗濯、おやつ準備、園内の草取りや花植えなどの環境整備を担当します。



■仕事の様子、留意点、工夫してきたこと

- 作業は、個人の個性や障がい特性などに応じて、割り振られています。エサやりのうち、エサの配合や計量の作業は、習熟した担当者が行います。エサを載せたネコ車を動かす作業や掃除は比較的易しい作業です。
- 園では、日常の関わりから流通にのり販売されるまでの工程を情報提供しています。畜産班のメンバーは、愛情をかけた長時間の牛体ブラッシングなど日常の関わりを通して、穏やかで人に良く慣れた牛が育つことに喜びを感じています。結果として共進会でチャンピオン賞を取るまでの結果が得られ、より積極的な牛飼育活動となり、それぞれの目標となっています。
- 広々とした農場を確保した飼育環境の元、手間暇をかけた分だけ牛が人になつき、利用者は自信を持って飼育に参加し、プラスに働く好循環の中で、牛にも人にも心地よい環境となっています。
- 牛を世話することで生み出される責任感と牛に対する愛情が牛からも返ってくることでさらに牛が良くなつくという好循環とで充足感が生み出されています。このことから農工園の「牛づくりは人づくり」のモットーが生まれたといえます。



- 福祉施設の視点で農工園を捉えたとき、授産施設での飼育は、働く障がい者の安全面から一般的に豚や鶏の中小家畜が一般的で、大家畜である肉用牛飼育は希といいますが、農工園での成功例は他の施設にも大いに参考になります。
- 肉用子牛の価格高騰もあり、利用者には、青森県の平均工賃額(12,000~13,000円/月)以上の工賃を還元しています。中でも難しい作業(個体・生育ステージ別の餌やり)を担う人には、5万円以上の工賃を支給しています。

- 支援者(施設職員)が利用者の可能性を信じ、我慢強く見守りながら一人ひとりの個性と障がい特性に応じた環境で、適した仕事を作り出しています。特に仲間意識をもち、集団の中で相互に助け合える環境が、本人のやる気と体力と潜在的な能力を引き出していました。事業所の運営方針並びに指導目標にある「利用者が自らの実践を通して体得させる」に通ずるものです。

■ 取り組みの経緯

初代理事長夫婦は、障がいのある長女が養護学校高等部を卒業しても働き場のない状況を痛感していました。卒業後の社会参加の場として、同じ境遇に置かれている親子らのため、私財を投じて昭和58年に在宅障がい者の働き場となる施設建設に着手しました。この働き場となる施設作りへの取り組みが、障がい者との関わりのきっかけとなっています。

施設が始動したときは、利用者は娘も含めて2人で、取り組む支援内容も手探りでした。実験用のマウスの飼育も行うなど試行錯誤の繰り返しだったようです。牛との出会いは、初代理事長の牛好きが高じて、十和田市内の畜産農家から一頭を寄付されたことがきっかけでした。

■ 地域との関わり

堆肥と稲わらを地域の農家と交換して自然循環農業の推進に寄与しています。



■ 今後の展望、課題

- 施設全体では高齢化についての検討が必要な状況があり、働く者の住む場の確保として用意された福祉ホームは支援が無い前提となっていますが、個別な事情では支援が必要な状況が生じており今後の課題とされています。
- 実質的に授産施設に併設している畜産経営ですが、一般の畜産経営が障がい者就労という点で授産施設と連携・協力する形態の優良な参考事例にもなりそうです。

障がい者就労に関わる用語

- ※1 グループホーム → p.56
- ※2 就労継続支援B型事業所 → p.56
- ※3 就労移行支援事業所 → p.56
- ※4 工賃 → p.56

関連情報

法人URL <http://onwakai.jp/>

所在地 青森県十和田市大字八斗沢字家ノ下310-1

その他 動画あり(約10分) URL:<http://www.lipross.jp/> 畜産経営支援協議会

農事組合法人 トキワ養鶏

～‘仕事の切り出し’に期待がかかる障がい者雇用の拡大～

青森県南津軽郡藤崎町

トキワ養鶏は、飼料に米を活用した採卵鶏を平飼いで行っています。飼養羽数は4万羽、品種は「ごとうもみじ」で、飼料に活用している米は、転作田や耕作放棄地に飼料用米を作付けしたものを採卵鶏に給与し、飼料自給率の高い付加価値鶏卵を生産しています。

配合飼料の高騰から、平成18年に休耕田に飼料用米を作付けし給与したところ、栄養面、生産面で輸入飼料に遜色の無い結果を得て、翌年から農家の協力を得て飼料用米を生産することとなりました。飼料用米を生産する農家には、組合で製造する発酵鶏糞の投入をお願いし、耕畜連携も図っています。

平成15年に弘前市障害者生活支援センターからの紹介で、養護学校^{*1}卒業生1名の雇用を始めてから、12年間継続しています。調査の翌年度からは、系列の有限会社トキワ農場で新たに障がい者1名を雇用予定です。

法人経営概況

① 経営内容

採卵鶏、成鶏4万羽、平飼い

② 労働力

雇用35名、アルバイト15名

③ 法人形態

農事組合法人(昭和36年設立)

④ 特徴

- 国産鶏の「ごとうもみじ」を平飼いで飼育し、自然のままですストレスを与えない環境で卵を生産。
- ヒナの段階から抗生物質を使用せず、輸入トウモロコシを減らし、青森県産飼料用米を配合して育成。ヒナから大雛までの一貫飼育・管理。
- トキワ養鶏は、豪雪地域に働く場所を作るため国の振興支援を受けて昭和35年に設立された「常盤村養鶏農業協同組合」のグループ会社です。グループ内には、ヒナの育成センターや、卵の洗浄や選別を行うGPセンターのほか、養豚および、リンゴ栽培等耕種農業を行う2つの農事組合法人と、採卵鶏を扱う有限会社トキワ農場があります。グループ全体で「トキワ循環型農業(有畜複合農業)」を実現しています。

障がい者の就労状況

① 人数と障がい種別

1名、知的障がい

② 就労形態

直接雇用(県の最低賃金を支給)、社会保険加入

③ 通勤、住まい、食事など

公共交通機関(バス、電車)を利用して、弘前からおよそ1時間かけて通勤

④ 特徴

- 平成15年、弘前市障害者生活支援センターからの紹介で養護学校の卒業生(当時25歳)を受け入れて以降、12年間雇用を継続。

立地条件など

青森県津軽平野のほぼ中央に位置し、農業に適した肥沃な土壌に恵まれています。気候は、津軽平野の中では比較的温暖で、水と緑に囲まれた豊かな自然が四季折々に彩を添えるなど、変化に富んでいます。晴れた日は、岩木山が良く見えます。

障がい者が主に担う作業

- 給餌補助や堆肥製造補助を担当しています。主には堆肥場で仕事をしています。

仕事の様子、留意点、工夫してきたこと

- できる仕事の幅は大きくはありませんが、一人でできる作業は支援が無くとも進められる状況にあります。人との会話は不得意との会社の判断ですが、指示されたことは継続してひたむきに取り組んでいます。
- 職場のルールとして挨拶を重んじています。指示が出しやすい仕事を日々の関わりの中で割り振っています。
- 他の職員が本人の事情を理解しており、色々な面で配慮し、カバーしています。

取り組みの経緯

- 現在働いている1名は弘前市障害者生活支援センターからの紹介で雇用しました。その後の人材の募集は、障害者就業・生活支援センターなどに仕事内容を伝えて見合う人材を確保するという方法で行っています。この点については、これまで障がいのある本人の様子を見極めて必要な仕事を切り出す方法を意識したことがなく、今後の課題ということです。

今後の展望、課題

今後の方針としては、障がい者雇用を拡大していきたいと考えています。全国的に畜産系の従事者のなり手が少ない中で、真面目にひたむきに仕事に取り組んでくれれば進んで受け入れたいとのことでした。

障害者就業・生活支援センターなどに「補助作業で無く、仕事を任せられるレベルの人の紹介」を依頼していましたが、当面該当する者がいないとのこと保留中となっています。

なお、訪問直後の4月から系列の有限会社トキワ農場で特別支援学校の新卒者1名の採用を見込んでいるとのことでした。給与面では、県の最低賃金を予定しています。

障がい者就労に関わる用語

※1 養護学校 → p.57

関連情報

法人URL <http://www.tokiwa-group.com/index.html>

所在地 青森県南津軽郡藤崎町大字常盤字富田3番地4



施設入口



ごとうもみじ



飼料米配合飼料

(写真：トキワ養鶏 Web サイトより)

コラム

見学者による自問自答

- ①畜産現場での障がい者雇用に期待が大きく膨らんだ。この経営規模と作業形態では、障がい者の常時雇用が、あと2～3名は見込めるか。
- ②しかし、募集しているレベルが高度なため該当する者が見当たらないのが実情。この募集レベルをクリアする者であれば、畜産に限らずどの業種でも欲しい人材であり、提示できる給与・待遇の差の問題か。
- ③雇用体力のあるこのような法人経営に、健常者並みの障がい者ではなく、もう少し障がいレベルの高い者の雇用・就労についても問題提起。
→「作業の切り出し」により、人材のミスマッチは解決できる!



長谷川自然牧場株式会社

～ふれあい体験牧場における女性障がい者の雇用経験～

青森県西津軽郡鱒ヶ沢町

長谷川自然牧場は、昭和49年以来、葉たばこを栽培していましたが、農薬による体調不良が続いたため、昭和61年から自然養鶏に切り替えました。鶏糞を肥料とした鶏のえさを生産する循環型農業を実践していましたが、不足する肥料分を補うため、昭和63年から低コスト畜舎やエコフィードを活用して養豚部門を開始しました。

グリーンツーリズムインストラクターの認定を受けていて、農業の楽しさや食・命の大切さを伝えるための食育活動に積極的に取り組んでおり、県内外から子供たちや学生、消費者など年間2千人から3千人の訪問者・体験受け入れを行っています。

平成14年から26年の12月までは、福祉施設からの依頼で知的障がいの女性2名を雇用していました。平成27年からは、障害者手帳^{*1}を持っていない2名を新たに雇用しています。

法人経営概況

① 経営内容

畜産経営 養豚 繁殖雌豚90頭、肥育豚1030頭、
採卵鶏1200羽

製造加工品 ハム30kg/月、弁当60食/日
そのほか、ふれあい動物として、山羊、羊、ウサギ、
ガチョウ等を飼育

② 労働力

家族2名、雇用6名、アルバイト2名

③ 法人形態

株式会社

④ 特徴

- 自給飼料に強いこだわり。市販の配合飼料や抗生物質を使用せず、廃棄処分されたオカラ・米ぬか・屑ジャガイモ等の食品加工・農場副産物、食品残渣等を原料とした煮沸加工した飼料を豚や鶏に給与。
- 堆肥は、牧草や野菜栽培に使用、低コスト化経営や環境に優しい循環型農業を実践。
- 肥育豚は通常より4ヶ月長く(約10ヶ月)飼育。肉の旨さやとろける脂身には「長谷川の自然熟成豚」として全国的に高い評価。
- 卵は自家生産飼料を給与して生産し、白身や黄身が盛り上がっていて日持ちが良いとの評価。自然食品の店・アトピー患者の団体・デパート等で高値で販売。

障がい者の就労状況

① 人数と障がい種別

2名(男性)、障害者手帳は持っていないものの適応不全

② 就労形態

雇用(1名はフルタイム、他の1名はハーフタイム)
賃金は最低賃金相当、社会保険あり

③ 特徴

- 現在の2名は、高校や中学校の先生からの依頼により、平成27年4月から開始。
- それ以前に、平成14年から26年12月まで知的障がい者2名(女性)を雇用。福祉施設からの依頼によるもので、入所施設^{*2}から通勤。

立地条件など

長谷川自然牧場は、国道110号線を秋田から青森に向かう途中の鱒ヶ沢にあります。美しい海岸と世界遺産白神山地を抱える町で、天気の良い日には、牧場から岩木山がくっきりと見えます。



障がい者が主に担う作業

- 鶏卵の採集
- 堆肥製造 ポロだし、運搬、
- 畜舎内および周辺の清掃作業

仕事の様子、留意点、工夫してきたこと

- 以下は、平成26年まで2名を雇用していた当時のことです。
- 2名の女性は、近くの障がい者の入所施設の利用者で、毎日、牧場へ通ってきていました。男性の多い職場の中で、知的障がいをもつ女性が働くことになったため、経営主の妻が陰ひなたにしつけや生活面を支えるなどしながら家族のような関わり方で接していました。余暇支援も充実させ、毎年小遣い付きで遠方のテーマパークなどに出かけています。
- 牧場では、仲間と働く意識の醸成を育んできました。いずれ施設からの自立を目指せるように職業面だけではなく、生活面での支援を気にしながらい日常の挨拶、洗濯機の使い方や掃除機のかけ方、靴の整え方までしつけ面での関わりを工夫していました。
- 職業面では仕事が体力仕事できついため、給料を得る喜びと働いた達成感にたどり着けるようにしました。



(写真：長谷川自然牧場 Web サイトより)

取り組みの経過

- はじめは、平成14年に福祉施設からの依頼で2名の女性を受け入れ、常時雇用としました。雇用期間は本人達の年齢で高卒時の18歳から30歳までになります。当初の2～3年は、仕事に習熟していないことから月3万円程度の賃金でしたが、以後は月5万円を支払ってきました。
- 平成26年の12月に、長年関わってきた2名の女性とは、施設側から急に切り出された「体力の限界」という理由で、関わりが切れてしまいました。十分な説明も無く施設側の都合と思われる面もあり、障がいのある人たちと畜産の現場で一緒に仕事をしながら温かい関わりを育んできた牧場主夫妻にとっては、挫折感が残りました。今後は、その施設と関わりを持つ予定はないとのこと。自立を目指す障がい者のためにも、施設側からは就労の開始時点のみならず、就労先の農家との間に継続的かつ十分なコミュニケーションが期待されます。

今後の展望、課題

これからについては、子ども達を中心に動物とのふれあいと楽しい農業を提供して行くとのことです。その中で、一般消費者や関係者ばかりでなく、障がい者、高齢者ともふれあえる環境を牧場で提供しながら、訪れた人が安らげるスペースづくりをめざすとのことです。引き続き、障がい者雇用に努め社会的な役割を果たしていきたいと考えています。

障がい者就労に関わる用語

- ※1 障害者手帳 → p.57
- ※2 入所施設 → p.57

関連情報

法人URL <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hasegawasizenbokuzyou/index.html>
所在地 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字北浮田字平野110



有限会社 ブライトピック千葉 溝原工場

～‘エコフィード’の製造工程で従業員として活躍～

千葉県旭市

ブライトピック千葉は、大規模な養豚の法人で、障がい者を従業員として雇用しています。溝原工場では、養豚の液状飼料(リキッドフィード)を生産しています。行政の助言を受け、雇用準備期間に障害者就業・生活支援センター^{※1}と密接な関係を構築してから採用活動を行い、平成19年5名の雇用を開始しました。福祉機関からの支援と協調した企業の従業員教育が実を結び、現在では16名の障がいのある従業員が雇用されています。障がいのある人は、包装食品の開封と分別、工場内での運搬作業、片づけなど清掃作業、事務作業などを担っています。

法人経営概況

- ① 経営内容
養豚業
飼料の製造(エコフィード) 日に約7,000トン
千葉県内に5つの養豚場と飼料工場
- ② 労働力
従業員34名
- ③ 法人形態
有限会社

障がい者の就労状況

- ① 人数と障がい種別
17名 うち女性2名
知的、精神、身体障がい
- ② 就労形態
飼料生産を行う工場での通年雇用、1日7時間
- ③ 通勤、住まい、食事など
自宅通勤が原則。交通手段等の面で自力通勤の困難な従業員のために送迎バスを運行。昼食は各自弁当を注文。
- ④ 特徴
地域の障害者就業・生活支援センターとの密な連携

立地条件など

ブライトピック千葉は、千葉県北東部の、養豚の盛んな農村地帯にあります。地元旭市とは地産地消で連携しており、旭市産の米をエサに導入して、「千葉県旭市育ち」ラベルを貼って地元産の豚であることをアピールしています。

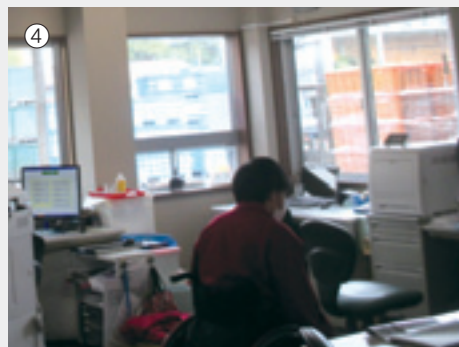


障がい者が主に担う作業の様子

- 障がい者の担当作業は、豚の飼料生産工場での作業と、養豚部門での作業があります。
- 飼料生産工場の作業は原料となる食品残さ等を取り扱うもので、
 - ①食品工場やコンビニエンスストア等より届く期限切れ包装食品の開封と分別、
 - ②フォークリフトによる工場内での運搬作業、
 - ③原料を入れるコンテナ洗浄や開封済み段ボールの片づけなど清掃作業 があります。
- 養豚部門では、豚舎の清掃を担当します。
- 事務室では、④事務作業を担当しています。
- 作業内容は、個人の技能や個性、体調等に合わせて担当職員が割り振ります。
- 作業の分担は班単位になっていて、朝礼の時に徹底して周知します。情報共有を図ることで、自主性を引き出しています。

一日の作業

- 8:00 — 通勤
タイムカード
- 8:30 — 始業、朝礼
(休憩)
業務
(昼休み)
- 13:00 — 業務
(休憩)
業務
- 17:00 — 終業
退勤



コラム

障がい者の職域を拡大する「エコフィード」利用の取り組み

エコフィード(eco-feed)とは、食品残さ等を利用して製造された家畜用飼料です。エコフィードの利用は、食品リサイクルによる資源の有効利用のみならず、飼料自給率の向上等を図る上で重要な取り組みです。原材料には、醤油粕や焼酎粕等、食品の製造過程で得られる「食品製造副産物」や、売れ残りのパンやお弁当等、食品としての利用がされなかった「余剰食品」、野菜のカットくずや非可食部等、調理の際に発生する「調理残さ」、規格外農産物等の「農場残さ」などが利用されます(農林水産省HP資料より)。

特に「余剰食品」は、通常、包装された状態で工場に持ち込まれます。製造工程そのものは機械化されているものの、包装に使われていたプラスチックなどが混入しないよう、丁寧な開封や適切な分別の作業が不可欠です。この工程での丁寧な作業は、家畜飼料の品質向上に大いに役立ちます。エコフィードによる飼養の取り組みは、障がい者の働く場の拡大にも貢献しているのです。



ベルトコンベア上に流れる余剰食品の
丁寧な開封と分別

留意点、工夫してきたこと

- 同社での支援方針は、障がいの有無にかかわらず、企業の社員として甘えることなく働けるようサポートすることです。賃金は能力給を取り入れ、また工場内で使用するヘルメットは技能等により色分けされており「〇色のヘルメットを目指す」という目標設定がモチベーションの向上に寄与しています。
- 安全管理や体調に合わせた柔軟な勤務時間管理などの配慮がなされています。例えば、体調のすぐれないときには、無理をせずに退勤するよう促しています。朝礼では、体調を確認するとともに、一日の目標を全員で読み上げます。



作業マニュアル (読みがな付き)



ダンベと呼ばれる容器
作業マニュアルで洗淨方法を定型化



バリアフリー対応の事務室入口
わずかな段差だがスロープを設置している

- 一つの作業ごとに、わかりやすいマニュアルが作成されています。読みやすいように、すべての漢字に読みがなをつけています。
- 事務室は、車椅子利用の職員に配慮し、入口の床面段差をなくしてスロープ状にしたり、通路幅を広くとるなどバリアフリー対応がなされています。

- 公共交通が不便な場所にあります。自動車通勤者もいますが、自力通勤が難しい職員もいるため、マイクロバス2台を用意し送迎に使っています。



通勤の送迎バス

■ 取り組みの経緯

- ブライトピック千葉での障がい者雇用は、平成19年に5名から開始しました。障がい者を雇用すると決めてからの準備期間には、個人的な努力や知人らからの情報収集のほか、行政からの助言を受けて、障害者就業・生活支援センター（以下センター）と密接な関係を構築し、受け入れる準備を整えました。今でも、障がい者雇用を続けていくうえで、センターは必要不可欠な存在と認識されています。
- 同社は、地域では知名度の高い企業であり、近隣在住障がい者の就労先として大きな役割を果たしています。

コラム

東総就業センターの障がい者雇用における推進力

ブライトピック千葉・溝原工場では、この地域で障害者就業・生活支援センター業務を担っている社会福祉法人コザリオの聖母会「東総就業センター」が、工場内での作業内容や就労継続に関するサポートを実施しています。

就労面では、例えばセンターの職員が、同社の工場内に自由に出入りできるよう便宜を図っています（全国的には珍しいことです）。センターの職員が工場に来るときには、工場の従業員同様にTシャツを着て、決まった色のヘルメットをかぶり、従業員の中に混じって自然体で支援をしています。

また、障がい者には生活面のサポート（体調管理、金銭管理など）が必要になることもありますが、これらについてもセンターの職員が一人ひとりを支援しています。

障がい者就労に関わる用語

※1 障害者就業・生活支援センター → p.56

関連情報

法人URL <http://www.brightpig.co.jp/>

所在地 千葉県旭市溝原1009

その他 動画あり(約10分) URL:<http://www.lipross.jp/> 畜産経営支援協議会



武井農場

～三世代続く職親の取り組み～

千葉県富里市

武井農場は、千葉県の北東部富里市にある耕畜複合経営の養豚場です。養豚に加え、スイカと野菜の栽培を行っています。親世代のころから、職親^{*1}として、障がい者とともに暮らし、働いてきました。現在は5名が、豚舎の掃除や給餌を行ったり、畑での補助作業を行っています。地域での「職親」への取り組みの中心的な存在で、次世代の後継者も障がい者と働く形態を継承する意思があるそうです。

法人経営概況

- ① 経営内容
畜産経営 養豚雌豚 繁殖40頭
複合経営 スイカ0.8ha、ニンジン2.65ha、その他の露地野菜
スイカは直販あり
- ② 労働力
家族3名、障がい者5名
パート 年間のべ350名
- ③ 法人形態
個人経営

障がい者の就労状況

- ① 人数と障がい種別
5名、知的障がい
- ② 就労形態
職親のもとでの訓練(期限あり)
- ③ 通勤、住まい、食事など
 - 寝食を共にして就労
 - 生活面(余暇、健康管理、金銭管理など)の指導あり
 - 時代の流れに沿って、就労と生活の区切りを明確にするよう心がけている

立地条件など

富里市は、東京都心から約50～60km離れた北総台地の中央部に位置しています。明治期には、御料牧場が設けられ「競走馬のふるさと」として有名です。耕種農業も盛んで、近年ではスイカの産地としても有名です。

障がい者が主に担う作業の様子、工夫、留意点

- 障がい者の担当する作業は、養豚では、豚舎の清掃、給餌(配餌)で、畑の作業は、スイカやニンジンの収穫補助、定植補助などです。
- 経営者によると、障がい者の存在により養豚経営を継続することができ、堆肥の利用によりスイカの食味向上など付加価値をつけることができ、直販の固定客からの評価も高いそうです。
- 作業の切り出し方の例としては、スイカ畑でのビニル張りのよ



繁殖豚舎外観

豚舎内部

一日の作業

朝食前 — 掃除、給餌
8時 — 午前の作業(休憩あり)
12時 — 昼食
 午後は季節により変動
15時 — 給餌、畜舎の管理
17時 — 終業

うな作業では、ビニルを止めるためのピンを配る作業を障がい者が行い、止める作業は家族従業員が行うように分担しています。

- 安全面での配慮として、ほ場と隣接して交通量の比較的多い道があるため、簡単に道路に飛び出さないよう注意を促す側光センサーを設置しています。また、大型機械の操作は家族従業員が行いますが、機械に巻き込まれないように注意を徹底しています。
- 喫煙者に対しては、喫煙場所を決め、火の始末に注意させています。
- 職親を始めた頃は、昔ながらの「住み込み」の仕事という様子でしたが、時代の流れに合わせて、仕事と生活の明確な分離、金銭管理の記帳など、家族同様の温かい接し方と同時に、障がい者の社会適応訓練としての役割を明確にすることにより、周囲からの誤解が生じないように努めています。



豚舎の清掃



側光センサー

(写真提供：千葉県畜産協会)

■ 取り組みの経緯

- 職親を引き受けたきっかけは、この農場の先代が、県内では早期に職親登録を行っており、地域でも先進的な事例でリーダー的な存在であったことです。こうした先導的な取組により近隣地区でも職親登録をしている畜産農家が複数あります。当代は幼少時から障がい者と暮らした経験を持ち、ごく自然に「職親」を引き継ぎました。「その人の一生を預かるつもりで」職親をしています。
- よく利用するサポートの一つに地域の相談支援事業所^{※2}天羽から紹介された「いんば中核地域生活支援センターすけっと」(佐倉市)があります。月に1回程度、支援者が農場を訪れて、障がいのある人たちと話をします。(中核地域生活支援センター事業は、千葉県独自の事業です。こども、障がい者、高齢者等、対象者を限定せず、24時間365日体制で、福祉サービスのコーディネイト、相談支援、対象者の権利擁護等を行っています)

■ 今後の展望、課題

今後も職親として、障がい者と一緒に働く経営を行いたいと考えています。後継者も、経営と職親を受け継ぐ見込みです。ただし、宿泊施設の受け入れ人数に限りがあるため、これ以上の人数を受け入れることは難しいと考えています。

障がい者就労に関わる用語

※1 職親 → p.57

※2 相談支援事業所 → p.57

関連情報

所在地 千葉県富里市十倉

コラム

職親とは

職親とは、知的障がい者の自立と社会経済活動への参加を促進するための援助と必要な保護に熱意をもつ、事業経営者です。市町村からの委託をうけて、一定期間、知的障がい者を預かり、生活指導と技能取得訓練を行います。職親のしくみは、市町村の独自性の高い事業で、千葉県は、県独自の事業を行うなど職親を大切にしている県です。



株式会社 堀江ファーム

～教育分野での経験から職親として養豚～

千葉県富里市

経営主は、養豚を営む傍ら、地域の教育分野で貢献してきました。市からの委託で「職親^{*1}」を引き受けたことが、畜産現場に障がい者を預かることになった契機です。これまでに約10名の障がい者と一緒に仕事をしてきました。現在は、2名の障がい者と日常生活を共にしながら養豚の仕事をするにより、技能習得訓練と生活指導を行っています。障がい者は、給餌や清掃を担当しています。

法人経営概況

① 経営内容

畜産専業 養豚
 繁殖雌豚:70頭
 耕種複合部門:なし
 多角化…ブランド化に取り組む
 「ダイヤモンド豚」の開発
 「房総ポーク」の推進

② 労働力

家族4名、障がい者2名

③ 法人形態

株式会社
 平成28年法人化、一戸一法人

障がい者の就労状況

① 人数と障がい種別

2名、知的障がい

② 就労形態

職親のもとでの訓練(期限あり)

③ 通勤、住まい、食事など

- 住居は敷地内の別棟
- 食事は経営主と共に
- 生活面(余暇、健康管理、金銭管理など)の指導あり

④ 特徴

余暇や健康管理面の配慮

立地条件など

富里市は、東京都心から約50～60km離れた北総台地の中央部に位置しています。明治期には、御料牧場が設けられ「競走馬のふるさと」として有名です。耕種農業も盛んで、近年ではスイカの産地としても有名です。

障がい者が主に担う作業の様子や工夫

障がい者の担う作業は、主に給餌と豚舎の清掃、堆肥製造です。



ふん処理作業



簡易離乳舎

一日の作業

朝食前 — 掃除、給餌
 9時 — 朝食
 朝食後 — 午前の作業
 昼食
 13時半 — 給餌、畜舎の管理
 17時半 — 終業

経営主は、一輪車さえうまく操作できる人であれば、作業は任せられると考えています。覚えた作業は、指示がなくても自主的に、こだわりを持って作業してもらえ、例えば、豚舎の床掃除を徹底的にしてくれるので助かるといいます。

また、年に1度、千葉県職親協議会が企画する潮干狩りイベントなどに、一緒に参加することを楽しみにしています。



豚舎の清掃作業



障がい者の住居

(写真提供：千葉県畜産協会)

コラム

千葉県知的障害者職親協議会による職親のバックアップ

千葉県知的障害者職親協議会は、昭和53年に設立された、県内の職親や関係者等を会員とする任意団体で、事務所を千葉県袖ヶ浦福祉センター更生園内においています。この会は、就労を目指す知的障害者の福祉の向上を図ることに協力し、会員の相互親睦と資質向上のため、地域交流会や職親研修会を実施しています。会では、会費のほか、千葉県からの補助(県単独事業、28年度)を受けて、研修会経費などに充てています。会員は43名、会員の事業所では合わせて56名の障がい者が就業しています(平成28年4月現在)。業種は農業が多く、事例8の経営主の武井氏は理事を務めています。武井農場でも堀江ファームでも、交流会で行われる年に1回の「潮干狩り」をレクリエーションとして楽しみにしているとの話があり、協議会が職親らにとって重要な役割をもつことがうかがえました。

取り組みの経緯

経営主は、地域の教育関係のボランティア活動等に尽力してきました。その縁で、福祉関係者の働きかけがあり、社会貢献と考えると職親を始め、昭和60年からこれまでにのべ10名程度の障がい者を預かった経験があります。

今後の展望、課題

住宅地に立地しているため、養豚の経営規模を拡大することは困難です。障がい者の担当作業を増やすことができないので、預かる人数を増やす予定はないそうです。

サポート体制としては、卒業した特別支援学校の教員が、年に1回程度フォローアップに訪れていて、障がいのある人たちは楽しみにしています。ただし、教員が業務の合間に個人的に訪問しているため、先生の異動や退職があると途切れてしまうことが心配です。

職親も障がい者も高齢化が進む中で「職親」の登録者は、この地域でも減少しているようです。

障がい者就労に関わる用語

※1 職親 → p.31コラム、p.57

関連情報

所在地 千葉県富里市七栄



株式会社 植村牧場

～障がい者を雇用して古都の市街地で続く牧場経営～

奈良県奈良市

植村牧場は、奈良市にある牧場で、酪農とビン牛乳の生産、直売などを行っています。障がい者雇用を始めて35年、ハローワークや養護学校^{*1}と一緒に一つずつ課題を解決しながら、市街地で牧場経営を継続してきました。現在では14名を雇用しています。障がい者の担う作業は、牛舎の管理、搾乳、牛乳のビン詰めや配達のほか、レストラン部門の接客などのフロア作業です。

法人経営概況

① 経営内容

酪農 経産牛30頭

生乳 1日 500本分、低温殺菌牛乳

- 戸別配達や市内の飲食店を中心にガラスビン入りの牛乳を納品
- 堆肥材料の提供を通して、近隣の耕種農家と連携
- レストラン「いちづ」、直売コーナー、イベントでの販売(正倉院展など)

② 労働力

従業員29名

③ 法人形態

一戸一人法人で法人化

④ 特徴

平成26年内閣府・農林水産省「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」受賞

障がい者の就労状況

① 人数と障がい種別

14名、知的障がい

② 就労形態

雇用、ただし最低賃金適用除外者^{*2}含む

③ 通勤、住まい、食事など

- 4名は通勤(公共交通機関等利用)
- 10名は敷地内にあるグループホーム^{*3}を利用(住み込み)
- 昼食あり

④ 特徴

人手不足を契機に障がい者雇用を始めて35年

立地条件など

奈良市の中心部。歴史的な名所旧跡の集まる地域。創業明治16年、奈良では最も古い牧場。



障がい者が主に担う作業の様子

障がいのある従業員の作業は、主に、酪農部門、牛乳処理・配達部門、レストラン部門での作業です。

酪農部門と牛乳処理部門の作業は、一連の作業として複数のメンバーが牧場担当職員の指示のもとで行っています。レストラン部門の作業は、料理長の指示のもとで1名が担当しています。

酪農部門での主な作業は、①搾乳準備と搾乳、②給餌、③牛舎の管理・清掃です。搾乳作業は作業に習熟したメンバーに限られますが、そのほか細かく切り出された作業を分担して行います。早朝からの作業は、もっぱらグループホームのメンバーが担います。清掃では、牛舎に敷かれたおが屑を掃除して一定の場所に集め、新しいおが屑を撒きます。おが屑と一緒に集められた排泄物は、通勤しているメンバーが作業を行い堆肥材料になり、近隣農家に運びこまれます。

一日の作業

- 5:00 — 牛舎の掃除
搾乳、配達
- 8:00 — 休憩、朝食
給餌、瓶詰め
- 14:00 — 休憩
- 16:00 — 給餌、搾乳
- 18:00 — 終業



新しいおが屑を撒いた状態



搾乳作業



牛乳処理施設への運搬

牛乳処理部門での主な作業は、回収したビンの洗浄、牛乳のビン詰め、ビン詰めした牛乳の冷蔵庫への運搬などです。ビン洗浄は、予備洗浄を手洗いで丁寧に行った後、牛乳ビン洗浄機を操作して洗浄します。また、空ビン点検の工程では、ヒビや欠けなどのビンのキズを注意深く点検し、不良なものを取り除きます。ベテランのメンバーは、微細なキズも決して見逃しません。牛乳のビン詰めでは、規定量が充填されているかどうかなど機械の作動状況も観察します。



酪農



加工ほか

配達部門での作業は、配達トラックへの積み込み、同乗しての戸別配達（運転は障がいのない従業員）、牛乳ビンの回収などがあります。戸別配達は、配達先の場所や牛乳の種類、本数など、最初は覚えるのが困難でしたが、工夫して覚えた結果、現在は、運転者が変わっても間違いなく配達ができるそうです。

レストラン部門での作業は、フロア作業とキッチンでの補助作業があります。フロアでは、来店客の案内や注文受付、配膳下膳、レジの作業などのすべてをこなし、キッチンでは、食材の下ごしらえなどを行います。



ビン詰め作業



ビン洗浄機を操作



配達の準備

■留意点、工夫してきたこと

搾乳作業では、搾乳用機械を装着する前に牛の乳房を清潔にする必要があります。洗浄用の温水が必要になります。そこで「牛舎にお湯を運ぶ」「牛の乳房を拭く」「搾乳用の機械をつける・搾乳する」という作業に分けて、多くの障がい者が働けるように工夫し、それぞれ技能に合わせて担当しています。絞った牛乳を「牛乳の処理施設に運ぶ」作業のみを担当する人もいます。

ビン洗浄機は、市販品よりも作動速度を遅めに設定して使用しています。

■取り組みの経緯と今後の展望

植村牧場では、労働力が不足していたときに求人を出したハローワークの勧めがきっかけとなり、障がい者雇用を長期にわたり継続しています。困難が生じた場合には、ハローワークや養護学校の教員ら、行政の福祉や税務などの関係部署に相談しながら、一緒に解決策を探ってきました。現在では、畜産分野における障がい者雇用の先進事例として全国に知られています。

地域の養護学校との関係は、卒業生を雇用しているほか、職場実習を受け入れています。また、小学生の体験実習を受け入れるなど地域との様々な関係を構築しています。希望者があるときには、遠方からも農業分野を専攻する学生の実習生を随時受け入れています。

植村牧場は、作業工程の高度な自動化を進めていないことが特徴の一つです。障がい者の労働力を活用して、「手作業」の良さを残しています。手間をかけた美味しい牛乳が消費者の高い評価を得ています。施設や設備は決して最新のものではありませんが、毎日、丁寧に掃除して排泄物を直ちに処理することで、牛にもストレスの少ない快適な環境となり、臭いもほとんど気になりません。

この牧場が30年以上前に障がい者雇用を始めた当時から続けているしくみの長所を伸ばしつつ、平成20年には敷地内にグループホームを設置するなど障がい者就労に関する諸制度の変化に対応して、従業員の居住環境を改善してきました。新しいしくみの中で無理なく次世代に引き継いでいくことが課題です。

コラム

奈良県立奈良東養護学校は、小学部(50人)、中学部(40人)、高等部(67人)、高等養護部(61人)からなる養護学校です(人数は平成28年度)。

高等養護部では「社会での自己実現を目指して」を教育目標にしています。農園芸コースや福祉くらしコースを設けて、自立した社会参画力を育てる教育活動を行っていることもその一環です。夏休みに様々な職場を体験して将来を考える実習を行います。実習先には農園芸分野の企業も含まれています。高等養護部の卒業生の半数以上が一般企業に就職しますが(平成28年度実績)、農畜産業関連企業への就職実績はあまり多くないようです。



多様な作物を栽培する農作業の実習畑



植村牧場では、レストラン、直売所、資料館などを併設し、多様な訪問者を受け入れる

障がい者就労に関わる用語

- ※1 養護学校 → p.57
- ※2 最低賃金の適用除外 → p.56
- ※3 グループホーム → p.56

関連情報

法人URL <http://www.uemura-bokujyo.co.jp/>

連絡先 TEL 0742-23-2125

その他 動画あり(約10分) URL:<http://www.lipross.jp/> 畜産経営支援協議会



酪農



加工ほか



有限会社 とうはく畜産

～服薬しながらの長期勤続で障がい者雇用に手応え～

鳥取県東伯郡琴浦町

有限会社とうはく畜産は、肉用牛肥育頭数1,650頭、年間出荷頭数950頭の肉用牛肥育を主体とする個別経営で3カ所の農場で飼養管理がされています。社員数は18名(男13名、女5名)で、現在障がい者は雇用されていません。

しかし障がい者は雇用されていないものの、持病を治療中の2名を雇用しており、それぞれ3年、20年勤務が続いています。鳥取県では、障がい者雇用の拡大が積極的に取り組まれており、経営主も障がい者の雇用に積極的で、社会貢献に意欲を有しています。取引先の視察も多いことから農場内の掃除の徹底や子牛の哺育・育成など仕事の切り出しを行うことによる障がい者雇用の可能性も見込まれています。

法人経営概況

① 経営内容

肉用牛繁殖雌牛:8頭(増産予定)
肉用牛飼育:1,650頭
子牛30頭
年間出荷頭数950頭
3つの農場で管理、主に黒毛和牛

② 労働力

常用雇用:18名(家族を含む)
平均年齢38歳、男13名、女5名

③ 法人形態

有限会社

障がい者の就労状況

① 人数と障がい種別

- 障がい者としての雇用は無し
- 持病のある人(治療と投薬により発作は抑制、見守りは必要)2名

② 就労形態

雇用

③ 特徴

- 1名は20年勤続。ハローワークの紹介ではなく、近隣の農協の合併時に転職希望があり、知人の紹介で受け入れ。
- 1名は3年目。知人の紹介で農業大学校から受け入れ。
- 申請すれば障害者手帳^{*1}を取得できるが2名とも申請していない。

立地条件など

鳥取県の中中部、大山山麓の豊かな自然環境に恵まれた地域で、江戸時代から続く和牛産地です。



障がい者が主に担う作業の様子

- 主に、軽作業(牛舎の掃き掃除など)を担当しています。
- 淡々とした仕事ぶりで、一生懸命に働くという優れた面があります。
- 投薬により日常生活への支障はほとんどありませんが、発作時の対応などには配慮が必要です。



今後の展望、課題

- 今後の障がい者雇用の可能性については、鳥取県では障がい者福祉について積極的な取組を進めていることから、社会貢献という意味でも障がい者雇用が積極的に考えられています。
- 雇用する場合は、3農場に一人ずつを想定しています。仕事の切り出しとしては、余った飼料の清掃や整理整頓などの軽作業や、子牛の哺育・育成の仕事、視察対応のための農場全体の清掃などを想定しています。重機械の作動中は、作動していない農場での作業を割り振るなどの方法により、安全な作業環境を確保することができます。
- 不安な点は、従業員とのコミュニケーションや指導方法、ならびに交通の便が悪いため通勤手段の確保です。危険を伴う機械作業も多く、事故や災害の無い作業環境づくりを心掛ける必要があります。安定的な障がい者雇用を実現して、障がい者に安心して働いてもらうためにも、支援体制とともに採用ルートの構築も、関係機関の協力を得ながら進める必要があります。

コラム

鳥取県の農福連携

鳥取県では、「あいサポート運動」や「鳥取発!農福連携モデル事業」など、積極的な取り組みを行ってきました。農福連携モデル事業での取り組みは、平成22年度と24年度に事例集にまとめられています。畜産の事例はありませんが、作業例として参考になります。

⇒ 「鳥取発!農福連携事例集」
<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=203076>

障がい者就労に関わる用語

※1 障害者手帳 → p.57

関連情報

法人URL <http://touhaku-chikusan.com/>
 所在地 鳥取県東伯郡琴浦町大字笠見799-2



大山乳業農業協同組合

～協同組合組織で障がい者を雇用～

鳥取県東伯郡琴浦町

昭和41年に設立された大山乳業農業協同組合は、平成15年に県内の全酪農家が組合員となるに至り、県内唯一の酪農生産者団体となりました（正組合員数178名、准組合員数794名）。現在の従業員数は、常時雇用が325名、有期雇用のパート・アルバイト100名で、うち知的障がい者1名、精神障がい者1名、身体障がい者3名の計5名が常時雇用されています。

障がい者の雇用は、10年以上前からで、ハローワーク等からの指導がきっかけで、組合員らの紹介により、養護学校^{※1}の卒業時より採用しています。担当する業務内容は、回収したビンの仕分け・洗浄等、また身体障がい者の3名は、受発注を含めて一般業務に配置されています。全県規模の組合として障がい者雇用に取り組んできました。

法人経営概況

① 経営内容

酪農生産の為の指導、生産資材を斡旋販売する購買事業及び生乳の処理、加工、販売事業が主。

② 労働力

常時雇用325名、パート・アルバイト100名。

③ 法人形態

大山乳業農業協同組合は、鳥取県内全部の各農家から集めた牛乳で、牛乳・乳製品の販売をしている日本で唯一の協同組合。出荷農家142戸、正組合員178名、准組合員794名。全額農民資本による一県一生産組合一処理工場という全国にも類を見ない経営体制。

④ 特徴

本社は鳥取県中部にあり、販売業者は京都・岡山・津山・広島・北九州ほか出張所や直売所がある。本社工場では、加工乳・乳飲料・バター・粉乳・生クリーム・アイスクリーム・ヨーグルト・菓子類を製造している。販売は牛乳が45%前後、関西地区が47%余り。飲用乳はガラスビン入り牛乳が23.1%、紙パックが73%。ガラスビン入り牛乳の需要は次第に減りつつある。

・ふれあい体験施設「大山まきば」は大山山麓にある人・自然・畜産の共生地域

障がい者の就労状況

① 人数と障がい種別

5名(知的障がい:1、精神障がい:1、身体障がい:3)
最も多いときは9名を雇用

② 就労形態

常時雇用。障がいを理由とした賃金の差はない。毎年評価して能力に応じて昇給あり。

■立地条件など

鳥取県の中部、大山山麓の豊かな自然環境に恵まれた地域で、江戸時代から続く和牛産地です。

■障がい者が主に担う作業の様子

- 身体障がいの3名は、販売部門(津山の営業所)で、受発注から配送関係、商品管理に従事しています。障がいの程度は、手指の障害で自動車の運転にも支障はありません。
- 知的及び精神障がいのある2名は、製造・加工部門で、原材料の仕訳の補助、ビンの選別や洗い場への準備作業(配達先から回収した牛乳ビンのフタ等の除去、仕分け、整理整頓など洗ビン機へ入れる前の屋外作業)などの業務を担当しています。
- 障がい者という特別な扱いをすることなく働くことができおり、職場の理解は進んでいます。
- 過去に、感受性の強い人が、周囲から注意を受けることが負担になって離職に至ったことがあり、注意の仕方や叱り方に配慮しています。



■取り組みの経緯

平成18年から障がい者雇用が開始されました。ハローワークからの働きかけがきっかけでした。最多のときには9名が就労していました。組合員や酪農家からの紹介による受け入れもありましたが、知的及び精神障がいのある2名は、10年ほど前に特別支援学校卒業時に受け入れています。

■今後の展望、課題

- **新規障がい者雇用の可能性について**
- 近年は、退職者の補充をしていないため、障がい者雇用についても現状維持が精一杯の状況です。
- ビン入り牛乳の需要が減少傾向にある中で、知的障がいのある人に適した作業を見つけにくいのが現状です。
- 組合員である酪農家の高齢化や後継者難は進行しており、個別経営における協業化していない部門での雇用の可能性が想定されます。

障がい者就労に関わる用語

※1 養護学校 → p.57

コラム

地域との連携

障がい者雇用の表彰制度の推薦等で、以前から、ハローワークなど障がい者雇用支援機関との関係はできていました。また、近隣に新設の特別支援学校があり、この春に1期生が卒業します。

雇用後に本人の思いと仕事が合わない場合もあり、相談窓口の充実や、職場実習等を通じた特別支援学校との関係強化が課題です。

関連情報

法人URL <http://www.dainyu.or.jp/>

所在地 鳥取県東伯郡琴浦町大字保37-1



有限会社伊東養鶏場／株式会社アシスト佐賀 ～採卵からカフェまで働く場を拡大する養鶏場経営～

佐賀県武雄市／佐賀県藤津郡太良町

近隣に特別支援学校^{*1}があり複数の卒業生の就労先であったことから、経営体の障がい者理解も深まっており、現在は15名の障がい者を直接雇用しています。省力化のための機械化を行わず、障がい者の分担する作業内容を明確にして習熟度を向上したり、障がい特性や体力に合った勤務時間の柔軟性や寮母を配置した宿泊施設の設置など生活面の配慮が、障がい者雇用を安定させています。卒業後も特別支援学校時代の恩師が卒業生と雇用主の両方の相談先になっているなど、就職先と特別支援学校の信頼関係が醸成されています。また、関連会社による就労継続支援A型事業所^{*2}への業務委託や市街地での鶏卵や洋菓子販売店舗の展開による6次産業化にも取り組んでいます。

法人経営概況

① 経営内容

畜産専業 採卵養鶏:12万羽
卵生産:5.5t
耕種複合部門:なし
多角化 関連会社による店舗販売
洋菓子加工販売、レストラン経営

② 労働力

35名

③ 法人形態

有限会社

④ 特徴

採卵鶏飼育開始 昭和36年(昭和57年法人化)

障がい者の就労状況

① 人数

29名 15名は雇用、14名は業務委託

② 労働条件や福利厚生

2ヵ所の農場の鶏舎や販売店舗で勤務
障がい特性に応じた勤務時間、宿泊施設あり

③ 雇用の経緯

人手が必要、ハローワークの紹介
特別支援学校からの働きかけ
障がい者に適した仕事の切り出しが可能

立地条件など

佐賀市から西へ約40km、鉄道や自動車約1時間の農村地域。農場は2ヵ所、販売店舗は市街地に3ヵ所。



障がい者が主に担う作業

- 障がい者の主な業務は、
 - ① 鶏舎など場内を清掃する
 - ② 鶏の移動、巡回をして鶏や鶏舎に異常がないか確認して管理者に報告する
 - ③ 産んだ卵を集める
 - ④ 卵を洗う、選別する
 - ⑤ 卵をパック詰めすることです。

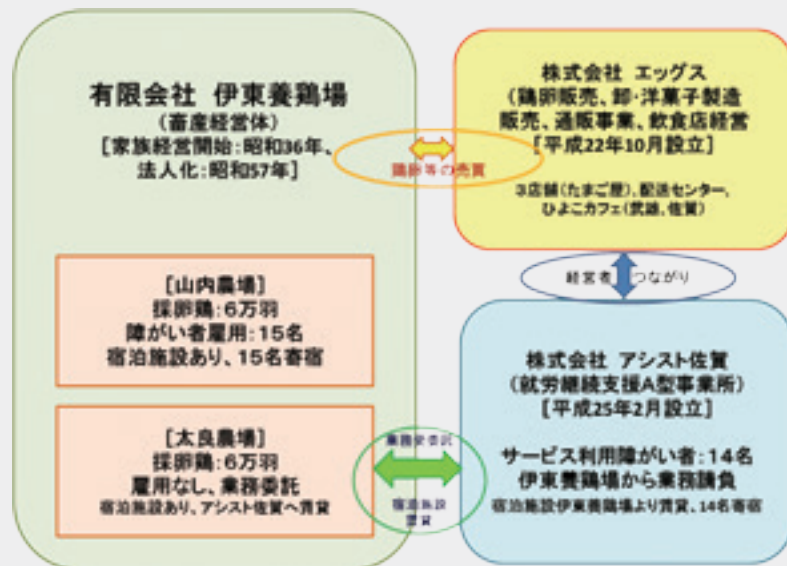
店舗での食器洗いや接客・販売補助なども障がい特性や程度に応じて担っています。



(写真提供：佐賀県畜産協会)

経営体の相互連携

- 伊東養鶏場という法人畜産経営体を中心に、障がい者が担う業務の委託・請負作業の関係がwin-winに構築されています。
- 課題となりがちな障がい者の生活の場を、経営体が保有する宿泊施設への寄宿や賃貸による宿泊施設に入寮させることで解決しています。
- 6次産業化の手法も取り入れて、消費者との交流を意識した店舗展開により、安定した販路を確保しています。



コラム

特別支援学校の就職担当教員の立場から

畜産現場に関心を持ち、畜産に関わる仕事を体験したい生徒がいても、地域の畜産農家とのチャンネルがないと、職場体験やインターンシップの受け入れにつながりません。

生徒のみならず保護者にも畜産現場からの情報提供が必須であり、卒業後の進路選択肢としての広報を期待します。

なお、近隣の特別支援学校から一般就労した平成26年度卒業生4人のうち1人が農畜産業でした。

障がい者就労に関わる用語

- ※1 特別支援学校 → p.57
- ※2 就労継続支援A型事業所 → p.56

関連情報

法人URL <http://ito-eggfarm.com/>
所在地 佐賀県武雄市山内町大字犬走2271-4



有限会社石橋ブロイラー／株式会社ISN福祉サービス ～グループ会社を設立して障がい者雇用を安定化～

佐賀県西松浦郡有田町

石橋ブロイラーは昭和45年に肉用鶏事業を開始して、現在約16万羽を飼養するブロイラー農家です。平成5年から障がい者雇用に取り組んでおり、平成15年には法人化しました。その後、福祉制度の改正を機に、関係機関の助言もあり、福祉サービスを提供する別会社を設立、障がい福祉サービスを充実して、平成26年には就労継続支援A型^{※1}の認定を受けました。そして、業務委託により障がい者の雇用機会の拡大に積極的に取り組んできました。また、近隣の特別支援学校^{※2}の卒業生を多く受け入れ、鶏舎の近くにグループホーム^{※3}を建設するなど就労環境にも配慮して、障がい者の雇用先として地域に貢献しています。

法人経営概況

- ① 経営内容
養鶏
16万羽
- ② 労働力
家族2名、雇用8名、業務委託
- ③ 法人形態
有限会社（家族で開始、平成15年に法人化）
- ④ 特徴
業務委託先の株式会社ISN福祉サービスで8名の障がい者が就労している

障がい者の就労状況

- ① 人数と障がい種別
8名、知的障がい
- ② 就労形態
石橋ブロイラーから就労継続支援A型事業所であるISN福祉サービスが作業を受託。利用者が作業を担う（雇用契約、最低賃金以上）。
- ③ 通勤、住まい、食事など
石橋ブロイラーの経営するグループホーム2棟に居住
グループホームは、作業する鶏舎から近く通勤は至近
- ④ 特徴
障がい者の雇用は、平成5年から開始。

立地条件など

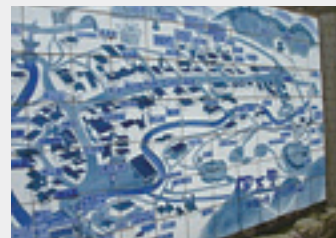
佐賀市から西へ約40km、鉄道や自動車ですら約1時間。有田焼や伊万里焼など陶芸窯元も点在する農村地域。



グループホームから望む鶏舎



グループホーム「寺尾の里」



(写真提供：佐賀県畜産協会)

障がい者が主に担う作業

- 主な担当作業は、給餌補助・配餌、堆肥製造・袋詰め、飼養管理補助、出荷後の鶏舎の清掃、水洗等です。「機械化は障がい者の職域を狭くする。巨額の投資をして機械を導入するより、仕事を覚えて即戦力となればむしろ効率的な作業が行える」と経営主は判断しています。



飼料の供給作業（手作業時）
ヒナが小さい時期は一輪車やスコップを使用し餌を供給する



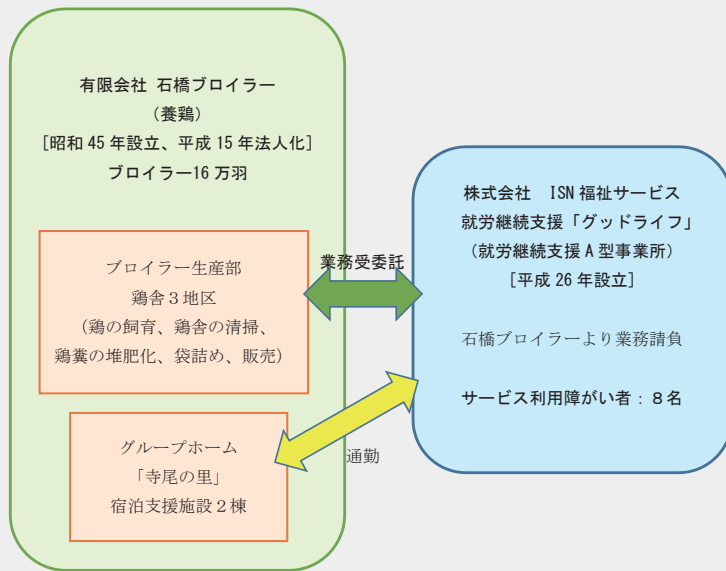
ヒナ健康状態の観察
動きが鈍いヒナを観察中



出荷後の清掃
鶏出荷後、鶏舎水洗前の清掃風景
(写真提供：株式会社 ISN 福祉サービス)

取り組みの経緯

- 学校や就労支援組織からの働きかけや紹介を契機に業務を見直したところ、障がい者に適した仕事があることに気づきました。
- 就業・生活支援センターやNPO、福祉事業者等をはじめ、行政機関と相談しながら進めてきています。
- 規模拡大を予定しており、調査翌年度には障がい者3名の増員が予定されていました。



障がい者就労に関わる用語

- ※1 就労継続支援A型事業所 → p.56
- ※2 特別支援学校 → p.57
- ※3 グループホーム → p.56

関連情報

所在地 佐賀県西松浦郡有田町下山谷

コラム

畜産現場の障がい者雇用を支える特別支援学校と福祉サービス

伊万里特別支援学校からは、これまでに伊東養鶏場およびISN福祉サービスへの卒業生の就職実績があります。職場体験では、畜産現場での実習も実施されており、伊東養鶏場と石橋プロイラーのほかにも肥育牛農家らの協力が得られ、のべ50日の実習を行った実績があります(平成26年度)。一方、畜産現場への就職や実習を希望する生徒も例年いますが、進路選択においては、本人の希望のみでなく家族の意向も反映されます。また、畜産の施設は動物の伝染病予防等の観点から集落と離れたところに立地することも多く、通勤の便は必ずしも良くありません。こうした事情を考慮すると、早朝作業の多い畜産経営においては、障がい者が自立して暮らせる安全な宿泊施設を備えておくことが、障がい者雇用による安定的な経営継続のために大切なポイントの一つです。なお、宿泊施設を福祉事業制度の枠組みで設置・運営する方法もあります。



養鶏



株式会社 大光食品／一般社団法人 光

～障がい者を大量雇用して地域の食と福祉を担う～

長崎県島原市

食肉処理を行う株式会社大光食品が、作業の一部を、福祉事業を行っているグループ会社の(一社)光に委託しています。(一社)光では、雇用契約を結んで障がい者が就労しており、主に地元ブランド鶏の食鳥処理において、ナイフを使った細かい作業を担っています。本書の中で最も雇用人数の多い事例です。大光食品グループでは、経営理念として「広く地域社会に貢献する」ことを掲げており、障がい者の就労機会の提供は、その一環として既に昭和50年代から開始されています。

法人経営概況

① 経営内容

食肉処理業、食肉販売、食肉加工製造販売、飼料販売ほか

食肉加工作業の一部を、福祉事業所(就労継続支援A型)に作業委託

② 労働力

従業員約280名(雇用113名、アルバイト・パート170名)

③ 法人形態

株式会社

④ 特徴

昭和44年創業、島原市では年間100億円以上を売り上げる大規模な会社経営。グループ会社としては、(株)エースフーズ、(一社)光、農業法人大光ファームを加えた4社から構成される。

豚カット肉は月間3,500頭、食鳥処理は月間約11万羽。

障がい者の就労状況

① 人数と障がい種別

大光食品グループ全体で 計46名
(知的障がい:43、身体障がい:2、精神障がい:1)

② 就労形態

ア 大光食品での直接雇用10名

イ (一社)光(就労継続支援A型事業所^{*1})の利用者30数名

雇用契約あり、最低賃金以上

(株)大光食品および(株)エースフーズから(一社)光が委託された作業に従事。通年で作業あり。

立地条件など

島原市は、県南西部の島原半島東端に位置し、有明海へ伸びる傾斜地にあります。温暖な気候で、「名水百選」や「水の郷」にも選定された豊かな自然に恵まれた地域です。地理的に都市部から遠隔な当地域は、若年労働力の流出傾向が特に著しいことから、労働力需要に対して慢性的な人手不足が生じています。食肉加工部門を担っている障がい者に対する関係者の信頼と期待には大きなものがあり、実際に就労機会を得た障がい者がその期待に十分応えています。

障がい者が主に担う作業

障がい者の担う主な作業は、鶏肉(雲仙しまばら鶏)の解体処理で、切れ味のよいナイフを使用した細かな精肉作業です。障がい者は重要な労働力として大いに期待されています。

この作業は、図のように、大光食品から(一社)光の光事業所に委託されている作業であって、光事

業所の中で完結させる必要があります。光事業所では、大光食品島原工場のラインの一部と機械を賃借して作業場に行っていますが、作業の手順などの指導は光事業所の支援員が行い、商品管理は光事業所の職員や利用者（障がい者）が行って、完成品を大光食品に納品します。請負作業については、隣り合わせで作業をしても、指揮命令系統の明確な区分に留意する必要があります（コラム参照）。また、光事業所では、障がい者の安全管理や健康状態への配慮等については、大光食品から出向してきた3名が支援員として担っています。

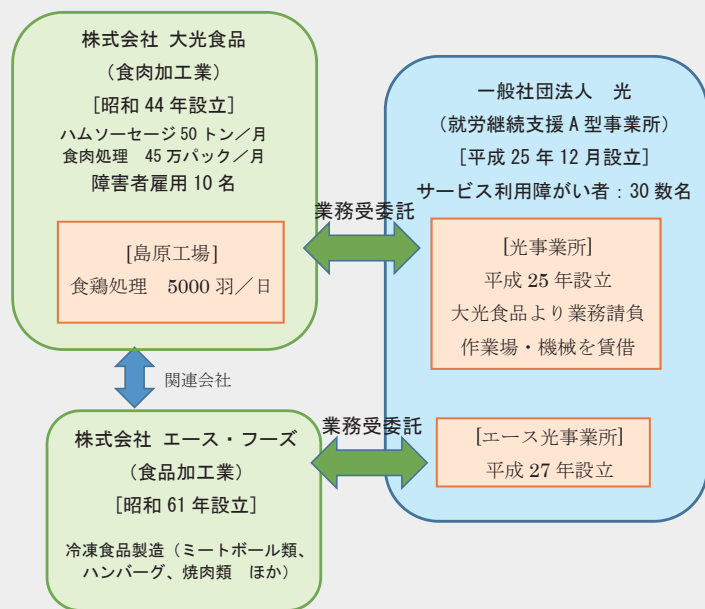
また、障がい者の担う作業の委託元である、グループ会社の㈱エースフーズからは、(一社)光のエース光事業所において冷凍食品の食品加工の作業を請け負っています。

■ 取り組みの経緯

大光食品グループでは、経営理念として「広く地域社会に貢献する」ことを掲げており、障がい者の就労機会の提供は、先代社長の昭和50年代から既に開始されていました。グループ会社として平成25年に一般社団法人「光」プロイラー事業所を設立し、就労継続支援A型事業所として認定を受け、翌年には就労継続支援B型事業所^{※2}が加わり、多機能型事業所となりました。さらに平成27年には、近隣の市内瑞穂町にエース光事業所を開設するなど、取り組みを拡大させています。この間、地元で先進的に障がい者の就労に取り組んでいる社会福祉施設に相談したり、自ら関連制度等を学んだりしながら、進めてきました。

近年は、経営者が、第三セクター職業訓練法人長崎能力開発センターの役員を務め、卒業生の雇用促進や社会福祉施設の生産品の販売協力を行うなど、自社の経営のみでなく、広く地域全体をみながら、障がい者の就労支援に積極的な取り組みを続けています。

3年ほど前に諫早の特別支援学校から依頼された、春休み・夏休みを活用した年4～5回の研修に、生徒が通って来ています。



障がい者就労に関わる用語

※1 就労継続支援A型事業所、※2 就労継続支援B型事業所 → p.56

関連情報

法人URL <http://www.shimabarakobo.com/>

所在地 長崎県島原市本町甲183-1

コラム

作業委託（請負作業）における留意点

畜産経営体等が福祉事業所に作業を委託するケースでは、畜産経営体の職員と、福祉事業所の利用者である障がい者とが、同じ農場内や工場内で作業を行う場合も少なくありません。この際、「労働者派遣」と「請負」とでは労働者の安全衛生の確保や労働時間管理等に関する責任の所在が異なるため、業務の遂行方法に注意が必要です。

この事例では大光食品の職員が、光事業所の職員と利用者、現場で作業指示や作業指導はできません。もちろん、日常会話など、業務に関係のない会話をすることは構いません。詳しくは、都道府県労働局等にご確認ください。



社会福祉法人 南高愛隣会

～アニマルセラピーなど幅広い取り組み～

長崎県雲仙市

社会福祉法人南高愛隣会は、「幸せを実感できるサービスの提供を」を合言葉に、障がいのある方の地域生活への希望を叶えるために活動しています。知的障がい者を中心に長崎県下(諫早市、長崎市、佐世保市、雲仙市、島原市)で約1,000名の利用者へサービスを提供しています。

独自の営農事業に加え、外部の農業法人や食品会社と積極的に連携し、生産・飼育から販売までを一貫して行う「農福連携」を推進し、牛・馬の飼育や養鶏を行っています。

また、馬による療育乗馬(乗馬のリズミカルで滑らかな動きが姿勢やバランス感覚を改善しアニマルセラピー効果も期待)にも取り組んでいます。

法人経営概況

① 経営内容

和牛・地鶏の飼育(平成27年12月現在)

- 黒毛和牛34頭(肉牛用:22頭、育成牛:2頭、子牛:10頭)
- 長崎県在来種を改良したブランド鶏「つしま地どり」を飼育
年間出荷羽数 約7,300羽

② 法人種類

社会福祉法人

③ 特徴

長崎県地域和牛共進会において銅メダル受賞(平成25年)

立地条件など

長崎県の県央地域では、平野部から中山間地域までの様々な地形条件を生かし、多様な農業が営まれています。



干拓地では大規模な畑作が行われています。

障がい者の就労状況

① 就労形態

黒毛和牛の肥育は、日中活動を行う雲仙市の事業所で実施

養鶏は、民間企業からの受託作業として実施

② 通勤、住まい、食事など

法人内で、複数の入所施設やグループホームを運営

③ 特徴

療育乗馬は、昼間の活動(生活介護)の一環として、雲仙市や諫早市にある事業所で実施しています。法人外部からの来訪者の体験乗馬も行っています。(調査時点では休止中)

諫早市の事業所では、市の複合遊園施設「干拓の里」(干拓資料館や遊具などがある)内にある小動物園の管理を受託しています。小動物園には、ポニー、羊、ロバ、ウサギなどが飼育されています。



(写真：社会福祉法人南高愛隣会 Web サイトより)



コラム

特別支援学校との連携にむけて

大村市にある県立虹の原特別支援学校では、授業や課外活動の一環として、生徒がブロイラー農家やJA、壱岐にあるキャトル・ステーション(子牛の共同育成施設)などで実習したり、卒業後に就職したりしています。学校側には、見学や体験を通して生徒らの畜産への興味を広げ、畜産分野での雇用の幅を広げたい意向があり、今後の相互理解と連携が期待されます。

一般的に特別支援学校では、学年ごとに就労体験実習の時期が決まっており、前年度中にカリキュラムが予定されます。畜産現場での実習受入れが可能であれば、前年度の早い時期に、学校に対して「どこに所在する畜産現場で、どの時期にどんな仕事があるか」という情報提供があるだけでも助かるということです。

また、畜産(肉用牛)が盛んな壱岐対馬の島しょ部から来ている寄宿生は、地元に戻りたいためキャトル・ステーションなどを就労先の一つとして考えているようでした。もちろん、全ての作業をこなすことはとてもハードルが高いでしょう。しかし、畜産現場の理解が広がり、作業を切り分けることができれば、就労の機会が大きく広がると期待されます。



コラム

機会・条件が合えば障がい者雇用を考えているAさん

南高愛隣会の事業所のある市に住むAさんは、酪農80頭と畑作を行う耕畜複合経営の法人経営主で、家族二世帯5人のほか従業員・アルバイト4名とともに働いています。市内では、農業法人協会の役員等を歴任するリーダー的存在で、市からの勧めもあり、農業法人として社会貢献したいと障がい者雇用を検討しています。

経営者の多くは、酪農部門での作業は、障がい者にとって危険な作業が多いと考えています。また、適した業務の切り出し方や、他の従業員とのコミュニケーション、障がい者への仕事の指導方法等に不安があるようです。農場内には、酪農部門の掃除、畑作部門の草取りなど、障がい者が担いやすい作業も多くあり、作業をいかに切り出し、選択し、担当者と適合させていくかが課題のようです。

見学者による自問自答

- ①この経営規模と作業形態では、障がい者の常時雇用はむずかしい。
- ②作業の切り分けによる単発の就労機会の提供が有効。
- ③切り分けた作業を委託作業として社会福祉法人等(就労継続支援B型であればなお良い)と契約することも選択肢の一つ。特定の時期に一定の人数に作業に来てもらう。農業経営主は、対価を社会福祉法人等の委託先に委託料として支払う。
- ④農場への移動手段、作業監督者の配置などが課題。
- ⑤農福連携では、必ずしも雇用だと思わず、寄付による社会貢献だと考えてもよいのではないか。その場合、税制上の特典を設けることも有効。

関連情報

法人URL <http://www.airinkai.or.jp/>

所在地 長崎県雲仙市瑞穂町古部甲1572(法人本部)

社会福祉法人 白鳩会／農事組合法人 根占生産組合

～農畜産業を礎に就労の場を地域に創出～

鹿児島県肝属郡南大隅町



3年程度の社会適応訓練で障がい者に自立を促すことに限界を感じた社会福祉法人白鳩会が、就学期を終えた障がい者に就労の場を提供するため農事組合法人根占生産組合を設立して、当時唯一の地場産業であった農畜産業による障がい者雇用を実現した先駆的な取組です。障がい者に生活と就労訓練の場を提供しつつ、養豚や茶の栽培を主体とする農事組合法人の農作業を受託して障がい者への工賃^{※1}を確保し、利用者の需要に合わせた障がい福祉サービス事業を展開しながら障がい者の職域拡大に努めてきました。事業の拡張は、後継者不足により遊休化する農地の活用や地域住民の雇用機会の創出にも直結して、地域での社会貢献も多大なものです。さらに、鹿児島市内でのアンテナショップ機能を兼ねた食品加工の就労系事業の展開は、消費者との関係性を深め、販路の開拓とともにブランド化による付加価値や働く障がい者の達成感を高めることにも寄与しています。

法人経営概況

花の木農場

①養豚

母豚150頭 3,000頭／年出荷
肉牛25頭、牧草畑3.5ha、茶園7.5ha、水稻3ha、
ニンニク6ha、野菜1.3ha等

②耕作地総面積

45.1ha

③売上額上位

肉豚、茶、ニンニク、肉牛、米

④従業者数

職員52名、利用者102名
加工部門・レストラン・物販あり 6次化

障がい者の就労状況

①雇用の経緯と現況

福祉施設が農事組合法人を設立、農業参入
農事組合法人で雇用6名、社会福祉法人の就労系事業所で福祉的就労を主体に約170名の利用者が施設外就労(H29.1時点、鹿児島市内の事業所は除く)

②仕事の内容と班構成

養豚、茶園、茶工場、肉牛、精肉・解体、ハム・ソーセージ、ニンニク、トマト、花、水耕、野菜、茶加工、パン・惣菜 など

③就労現場で工夫している支援方法

日頃からの声かけで尋ね易く／習慣化まで繰り返して量・大きさの判断を／特性に合った作業／工程を分解して一つずつ指導／先輩利用者が後輩利用者に教えて共同作業を誘導／できる作業を任せる



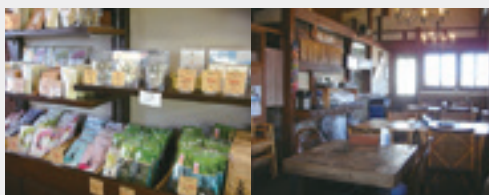


レストランは、佐多岬方面への沿道にあり、立ち寄る観光客のほか、事業所の利用者らメンバーにとって特別な日の昼食スポットとしても機能しています。

コラム

触法障がい者に対する取組

近年では、地域生活定着支援センターや更生保護施設など関係機関からの要請もあり、触法障がい者受入の取組も始めています。法人の相談支援センターを通じて、就労継続支援A型、B型の事業所^{*2}で他の利用者らと一緒に汗を流しています。



立地条件など

- 地域の基幹産業が第一次産業であり、農畜産業を主体とする就労支援が適合しています。観光資源も多く、地域との密度の高い関係性に加えて来訪者を見込んだ6次産業化の展開余地が大きくなっています。
- 交通の便は悪く、県都にも空港にも航路や主要道路で2時間以上かかりますが、湾を隔てた開聞岳や田園の自然環境は絶景といえます。
- 広大な土地でゆったりとした生活介護サービスや就労支援サービスを障がい者に提供することができます。



茶園の先は錦江湾。その向こうに開聞岳

留意点、工夫してきたことや当面の課題

- 養豚は、法人運営の屋台骨。茶の栽培とともに設立当時から取り組む、福祉事業所としての重要な農作業です。今日では、法人の運営を特徴づけるばかりでなく、福祉の側面のみならず雇用機会の創出やブランド性という点でも、地域の産業を支えています。
- 移転した厩舎が清流河川の水源地に近いことから、最新の糞尿処理技術を積極的に取り入れるなど、環境保全対策には新しい技術を取り入れてコストをかけています。
- 豚舎の老朽化が進み、分娩室などの衛生管理水準の向上が喫緊の課題となっています。



建物は古くても管理が行き届いた豚舎



肉牛



養豚



加工ほか



水源に近い豚舎の環境対策、グループホームもあり分娩対応も迅速

■ 経営、マネジメント

- 法人経営には、地域社会からの理解が得られることをモットーに、外部有識者の客観的判断を取り入れる審議会方式を導入しています。
- 職員と利用者が一体となって働く班構成と分野ごとに責任を持つマネージャー制度を導入して、利用者の参加意欲の向上とともに、従業員の主体的な経営参加にも配慮しています。
- 経営収支については、役員の報酬削減で健全財政を維持している側面もあり、事業の採算性確保も大切な視点となっています。



花の木農場では、農畜産業の営みの中で田園風景やバーベキューが楽しめる



肉牛



養豚

社会福祉法人の市街地サテライトの役割

- 複数の福祉事業所の農作業が展開される南大隅町を生産拠点とすると、鹿児島市中心部に位置する事業所は、障がいのある人たちへの生活介護や就労支援サービスが主体です。そして、消費地での物流拠点の役割を兼ねています。

通所施設・花の木カノンは、鹿児島市内にある「花の木」を冠する3つの事業所の中でも、「まちのホットステーション」として交流の場をも提供できるよう、カフェの接客業務も含めた多種目の就労支援サービスが、幅広い年齢層の利用者に提供されていることが特徴の一つです。



オシャレで親しみの持てる事業所1階の店舗は、大通りに面しており立ち寄り客も多い
児童の放課後等デイサービス（定員10名）を市から委託され日中一時支援事業も実施

- 市街地でアンテナショップ機能を持たせた福祉事業所の展開や消費者との法人内で生産している商品のブランド化を重視していることは、福祉事業所が安定した運営を行い、利用者への充実した生活介護や就労支援サービスを提供するための大切な経営戦略であると言えます。観光ターミナルの商業施設にもジェラートの店を出しており、夏場を中心にリピーターも増加しています。

● 利用者の1日の標準的なスケジュール

利用者の作業時間は、昼食休憩をはさんで
実働5時間／日が標準になっています。
(「花の木カノン」の休業日は、利用者も休日)

- 9:30 出勤(通所:公共交通も便利)
作業・余暇活動など
- 11:30 昼食および休憩
- 13:00 作業・余暇活動など
- 16:00 帰宅開始



売店で販売されている自家製クッキー
(西郷どん、市電の正面、ブタさん)

障がい者就労に関わる用語

- ※1 工賃 → p.56
- ※2 就労継続支援A型事業所、就労継続支援B型事業所 → p.56

関連情報

法人URL <http://shirahatokai.jp/>
所在地 鹿児島県肝属郡南大隅町根占川北2105



加工ほか

参考資料

●畜産現場での障がい者の参画事例を映像でご覧になれます!

事例集に掲載されている事例No.4、No.7、No.10の動画を作成しました。

主な内容は、障がい者の就労状況(休憩時間含む)、農場などの就労環境、経営者や従業員、サポートを受けている支援組織(特別支援学校等)の担当者らのインタビューなどです。視聴時間は、およそ10分です。

次の畜産経営支援協議会のホームページからご覧になれます。ぜひ一度ご覧ください。

畜産経営支援協議会URL

<http://www.lipross.jp/>

■事例一覧

事例No.	名称	畜種	地域
04	社会福祉法人恩和会	肉牛	青森県
07	有限会社ブライトピック千葉 溝原工場	養豚	千葉県
10	株式会社植村牧場	酪農	奈良県



肉牛 (社会福祉法人恩和会)



養豚 (有限会社ブライトピック千葉)



酪農 (株式会社植村牧場)

●「畜産現場における障がい者の参画推進のための手引」を作成しました

畜産現場での障がい者の参画を進めるため、具体的な作業内容、働き方の種類、地域での定着支援などの情報を整理しています。併せてご活用ください。

●関連する施策の情報収集のための官公庁ホームページ例

‘農福連携’や障がい者の就労支援など、関連情報収集のための参考ページです。

▶「農」と福祉の連携に関する情報は

農林水産省農村振興局 <「農」と福祉の連携>

<http://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/kourei.html>

▶障がい者の雇用・就労に関する情報は

厚生労働省→雇用・労働→雇用 <障害者雇用対策>

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/shougaihakoyou/index.html

▶障がい者福祉における就労支援に関する情報は

厚生労働省→福祉・介護→障害者福祉 <障害福祉サービス等>

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaihashukushi/service/index.html

▶特別支援教育に関する情報は

文部科学省初等中等教育局<特別支援教育について>

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main

パンフレット「特別支援教育」について →



▶共生社会の情報のうち障害者施策に関するものは

内閣府政策統括官(共生社会政策担当)

<http://www8.cao.go.jp/shougai/index.html>

障がい者就労に関わる用語

掲載ページ

(事例ごとに初出ページを記載)

か行

•グループホーム…………… 8、15、18、34、44、48、52

法律に基づく福祉サービスのうち、夜間の支援の一つ。共同生活援助。

地域で少人数での共同生活を営む住居において、主に夜間に相談、入浴、排せつ、食事の介護その他の日常生活上の援助を行う。

•工賃…………… 18、50

福祉事業所の生産・販売活動(従来の授産活動)に係る事業の売上げから、経費を差し引いた額を原資として、利用者(障がい者)に還元されるもの。

さ行

•最低賃金の適用除外…………… 34

労働者を雇用する際は、雇用主は最低賃金以上を払う義務がある。ただし、障がい者雇用の場合、一人ひとりの障がいによる制約を評価して、最低賃金の減額の特例許可を申請することができる。

•就労継続支援A型事業所…………… 8、14、42、44、46、51

就労継続支援A型事業(雇用型)は、法律に基づく福祉サービスのうち、日中の就労系の活動支援の一つ。企業等に就労することが困難な障がいのある人に対して、雇用契約に基づく生産活動の機会の提供、知識および能力の向上のために必要な訓練などを行う。このサービスを通じて一般就労に必要な知識や能力が高まった人は、最終的には一般就労への移行をめざす。

事業所では、利用者(障がい者)と雇用契約を結び、最低賃金以上を払う。

•就労継続支援B型事業所…………… 8、18、47、49、51

就労継続支援B型事業(非雇用型)は、法律に基づく福祉サービスのうち、日中の就労系の活動支援の一つ。事業所では、通常の事業所に雇用されることが困難な就労経験のある障がいのある人に対し、生産活動などの機会の提供、知識および能力の向上のために必要な訓練などを行う。このサービスを通じて生産活動や就労に必要な知識や能力が高まった人は、就労継続支援(A型)や一般就労への移行を目指す。(雇用契約は結ばない)

•就労移行支援事業所…………… 14、18

就労移行支援事業は、法律に基づく福祉サービスのうち、日中の就労系の活動支援の一つ。事業所では、就労を希望する65歳未満の障がいのある人に対して、生産活動や職場体験などの機会の提供を通じた就労に必要な知識や能力の向上のために必要な訓練、就労に関する相談や支援を行う。

このサービスでは、一般就労に必要な知識・能力を養い、本人の適性に見合った職場への就労と定着を目指す。

•障害者就業・生活支援センター…………… 26

障がい者の身近な地域において、雇用、保健福祉、教育等の関係機関の連携拠点として、就業面及び生活面における一体的な相談支援を実施する。障がい者の雇用にあたっては、就業・職場定着にむけた支援、生活習慣、健康管理、金銭管理などの日常生活の助言などを行う。

- 障害者手帳** …………… 10、24、38

地方自治体への申請によって交付される、障がいのあることが公的に認定されたことを示す手帳。障がいごとに、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳がある。様々な福祉サービスの利用等の際に所持や提示が必要となる。
- 職親** …………… 30、32

知的障がい者の自立と社会経済活動への参加を促進するための援助と必要な保護に熱意をもつ事業経営者のこと。自治体からの委託を受けて、一定期間、知的障がい者を預かり、生活指導と技能取得訓練を行う。
- 相談支援事業所** …………… 31

法律に基づく福祉サービスのうち、障がいのある人、その保護者、介護者などからの相談に応じ、必要な情報の提供や権利擁護のための援助を行い、自立した生活ができるよう支援するサービスを行う事業所。

た行

- 多機能型事業所** …………… 8、14、47

就労継続支援A型、就労継続支援B型、就労移行支援などの複数の福祉サービスを組み合わせて提供する事業所。
- 特別支援学校、養護学校** …………… 8、14、22、34、40、42、44、49

特別支援学校とは、障がいの程度の比較的重い子どもを対象として、専門性の高い教育を行う学校のこと。幼稚園から高等学校に相当する年齢段階の教育を行う。以前の盲学校、聾学校、養護学校などが、平成19年度より制度上は特別支援学校となった。地域によっては、学校名は養護学校などの校名を使っている。

な行

- 入所施設** …………… 24

ここでは、障がいのある人が入所している施設。法律に基づくサービスは、施設入所支援とよばれ、主に夜間において、入浴、排せつ、食事等の介護、生活等に関する相談・助言のほか、必要な日常生活上の支援を行う。

は行

- 法定雇用率** …………… 14

社会全体で障がい者の雇用を勧めるため、事業主に対して、法律に基づいて「労働者の総数に占める身体障がい者、知的障がい者である労働者の総数の割合」が一定率以上になるよう義務づけられている。平成29年時点では、民間企業は2.0%(従業員50人に1人)である。

※本ページの説明は、以下の記述を参考に、本事例集の理解のために掲載しています。個々のケースに応じた詳細につきましては、お近くの関係機関にご確認ください。

•**独立行政法人 福祉医療機構** **障害者福祉 > 制度解説・ハンドブック**

<http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/syogai/handbook/service/>

•**厚生労働省、文部科学省** **Webサイト(55ページ参照)**

平成28年度 畜産現場における障がい者の参画推進支援事業

畜産現場における障がい者の参画事例集 ～多様な人材で拓く畜産経営の未来～

畜産経営支援協議会

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-16-2

平成29年3月発行

畜産経営支援協議会

〒101-0021 東京都千代田区外神田2丁目16番2号
第2ディーアイシービル9階
TEL. 03-6206-0843